

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定

(平成 25 年度)

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会

ディスクロージャー研究会委員

座長	許斐 潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤リサーチ・アント・アドバイザー
	岩田 直樹	野村アセットマネジメント
	大類 雄司	みずほ銀行
	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
	津田 和徳	大和証券
	森 清	岡三証券
	渡辺 尚	明治安田生命保険

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	高木 敦	モルガン・スタンレー MUFG 証券
食 品	山崎 徳司	大和証券
化学・繊維	金井 孝男	シティグループ証券
医薬品	田中 洋	みずほ証券
石油・鉱業	塩田 英俊	SMBC 日興証券
鉄鋼・非鉄金属	山口 敦	UBS 証券
機 械	齋藤 克史	野村證券
電気・精密機器	嶋田 幸彦	SMBC 日興証券
自動車・同部品・タイヤ	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
電力・ガス	酒井田 浩之	ゴールドマン・サックス証券
運 輸	一柳 創	大和証券
通信・インターネット	忍足 大介	JP モルガン・アセット・マネジメント
商 社	成田 康浩	野村證券
小 売 業	正田 雅史	野村證券
銀 行	高井 晃	大和証券
コンピュータソフト	上野 真	大和証券
新興市場銘柄	納 博司	いちよし経済研究所
個人投資家向け情報提供	品田 民治	野村證券

目 次

はじめに	2 頁
ディスクロージャー優良企業	3
高水準のディスクロージャーを連続維持している企業	4
ディスクロージャーの改善が著しい企業	4
概 括	5
各 専 門 部 会 報 告	7
建設・住宅・不動産	8
食 品	14
化 学 ・ 繊 維	21
医 薬 品	27
石 油 ・ 鉱 業	33
鉄鋼・非鉄金属	39
電 気 ・ 精 密 機 器	45
自動車・同部品・タイヤ	55
運 輸	61
通 信 ・ インターネット	67
商 社	73
小 売 業	79
銀 行	85
新 興 市 場 銘 柄	91
個人投資家向け情報提供	98

は じ め に

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を平成7年度からスタートさせましたが、このほど平成25年度（第19回）の選定結果がまとまりましたので、ここに公表します。

本制度における業種ごとの優良企業選定は、当初は7業種を評価対象としてスタート致しましたが、その後対象は漸次増加し、これまでに評価対象とした業種は16となりました。

本年度は、建設・住宅・不動産、食品、化学・繊維、医薬品、石油・鉱業、鉄鋼・非鉄金属、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、運輸、通信・インターネット、商社、小売業、銀行の13業種を評価対象としております。

また、平成17年度から、従来の業種別優良企業選定とは別に、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を開始し、本年度も継続しております。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて企業情報開示の促進・向上、充実に寄与して参りたいと存じますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いする次第であります。

ディスクロージャー優良企業

建設・住宅・不動産	大 東 建 託	(4回連続5回目)
食 品	アサヒグループホールディングス	(11 回 連 続)
化 学 ・ 織 維	旭 化 成	(10 回 連 続)
医 薬 品	ア ス テ ラ ス 製 薬	(4 回 連 続)
石 油 ・ 鉱 業	J X ホールディングス	(3 回 目)
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	住 友 金 属 鉱 山	(3 回 連 続)
電 気 ・ 精 密 機 器	オ ム ロ ン	(2 回 目)
自動車・同部品・タイヤ	日 産 自 動 車	(7 回 連 続)
運 輸	東 日 本 旅 客 鉄 道	(2回連続6回目)
通信・インターネット	K D D I	(2回連続8回目)
商 社	伊 藤 忠 商 事	(2 回 連 続)
小 売 業	ロ ー ソ ン	(2回連続7回目)
銀 行	みずほフィナンシャルグループ	(2回連続3回目)
新 興 市 場 銘 柄	プロトコーポレーション	(4回連続5回目)
	サイバーエージェント	(5 回 目)
	イ リ ソ 電 子 工 業	(新 規)
個人投資家向け情報提供	日 本 電 産	(7 回 目)
	シ ス メ ッ ク ス	(2 回 連 続)
	J X ホールディングス	(新 規)

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して上位（2位ないしは3位）の評価を受けた次の6社を高水準のディスクロージャーを維持している企業として称賛状を贈呈することと致しました。

食	品	味	の	素
石	油	・	鉱	業
コ	ス	モ	石	油
鉄	鋼	・	非	鉄
金	属		D	O
			W	A
			ホ	ール
			ディ	ング
			ス	
電	気	・	精	密
機	器		日	本
電	産		電	産
運			日	本
輸			郵	船
小	売	業	J	.
			フ	ロ
			ン	ト
			リ	テ
			イ	リ
			ン	グ
			ス	

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいとして評価された次の2社に称賛状を贈呈することと致しました。

医	薬	品	塩	野	義	製	薬
電	気	・	精	密	機	器	
			富	士	フ	ィ	ル
			ム	ホ	ール	ディ	ング
			ス				

概 括

ディスクロージャー研究会
座長 許 斐 潤

本ディスクロージャー優良企業選定は本年度で 19 回目を迎えたが、その概要は次のとおりである。

1. 評価対象

- (1) 業種別については、原則として東証一部上場株式時価総額を基準として選定した、建設・住宅・不動産(16 社)、食品 (21 社)、化学・繊維(18 社)、医薬品 (17 社)、石油・鉱業 (7 社)、鉄鋼・非鉄金属 (14 社)、電気・精密機器 (23 社)、自動車・同部品・タイヤ (20 社)、運輸 (18 社)、通信・インターネット (8 社)、商社(7 社)、小売業 (18 社)、銀行 (13 社) の 13 業種合計 200 社を対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの五つの市場に上場している企業の中で、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定以上の 28 社を対象とした。このうち 19 社は昨年度からの継続評価対象企業、2 社は再対象、7 社は新規対象である。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種 (13 業種) および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割 (小数点切上げ) のうち、平成 24 年 7 月から 25 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している企業の 20 社を対象とした。このうち、昨年度も対象企業が 14 社、再対象が 6 社である。
- (4) 評価対象としたディスクロージャーの状況は、原則として、平成 24 事業年度に関する企業情報 (平成 25 年 6 月の評価実施時点までに開示された情報を含む。)に係るものとした。

2. 評価方法等

- (1) 業種別評価基準は、各業種共通項目として、「1. 経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス」、「2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示」、「3. フェア・ディスクロージャー」、「4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」、「5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示」の五つの分野を取り上げることとした。各分野の配点は、一定の範囲内で各専門部会が決定し、また、各分野の具体的評価項目、配点も、それぞれの専門部会の判断に基づき設定した。
この業種別評価基準 (スコアシート (以下同)) に基づき、証券アナリスト経験年数 3 年以上でかつ現在当該業種担当概ね 2 年以上のアナリスト、延 430 名が評価を行った。なお、各評価対象企業の評価に当たっては、各アナリストの自主申告により、過去 1 年間における当該企業への接触回数 (4 回以上) の要件を満たしていることとしている。
- (2) 新興市場銘柄については、各評価対象企業の業種が一律でないことから、上記の 5 分野のうち、「各業種の状況に即した自主的な情報開示」を除く 4 分野に関して、10 項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準に基づき、新興市場銘柄をカバーしている (当該企業の情報開示に関しコンタクト実績がある) 101 名のアナリストが評価を行った。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、「1. 個人投資家向け会社説明会の開催等」、「2. ホーム・ページにおける開示等」、「3. 事業報告書等の内容」の 3 分野について 16 項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準のうち、5 項目については、各評価対象企業にアンケート調査を実施しその回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目は、証券会社において、個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリストから構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。

- (4) 上記の評価結果を基に、経験豊富なアナリストで構成する各専門部会（15部会、計114名の委員）において慎重に分析し、各部会としての報告書の取りまとめを行った。当研究会は、この報告書を基に各業種等の優良企業の選定を行った。

3. 評価結果

評価結果の詳細は、後掲の各専門部会の報告に示すとおりであるが、その概要は次のとおりである。

- (1) 業種別における評価平均点は、建設・住宅・不動産 70.1点（昨年度 69.5点、以下カッコ内は昨年度）、食品 60.8点（57.8点）、化学・繊維 73.0点（73.5点）、医薬品 73.2点（70.7点）、石油・鉱業 71.5点（66.4点）、鉄鋼・非鉄金属 73.3点（74.9点）、電気・精密機器 72.0点（72.7点）、自動車・同部品・タイヤ 64.2点（62.2点）、運輸 65.8点（66.8点）、通信・インターネット 69.4点（65.6点）、商社 74.3点（76.5点）、小売業 72.5点（73.0点）、銀行 76.8点（72.1点）であった。

業種別における業種間の評価平均点の違いは、具体的評価項目の内容および配点に業種間の相違があることも反映している。また、昨年度の評価平均点との比較に関しては、具体的評価項目の増減や内容の修正、配点の見直し、対象企業の増減といった点等を考慮する必要がある。従って、一概に数値の増減だけでディスクロージャーの水準について昨年度と厳密に比較することは難しいものの、各業種別専門部会における評価結果の取りまとめ審議や、評価を行ったアナリストの意見等を総合的に勘案すると、企業のディスクロージャーは概ね向上傾向にあると評価することができる。ちなみに、本年度は、改善が著しい企業として2社が挙げられた。

なお、「有益な、工場見学会、事業部説明会、技術説明会、店舗（施設）見学会等の積極的な開催」については、多くの業種において、総じて評価の水準が低く、今後の改善が望まれる。

- (2) 新興市場銘柄の評価平均点は 63.6点（昨年度 61.1点）、各社の総合評価点の標準偏差は 6.9点（同 7.6点）であった。

本年度は評価対象企業 28社中、再対象 2社と新規対象 7社が含まれていることを勘案すると、数値上からディスクロージャーの水準について昨年度と比較することは難しい。しかしながら、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの企業で、経営陣自ら IRを行っていること等その取組姿勢や、IR部門の対応等その機能について、評価することができるとの声が多かった。

- (3) 資本市場の活性化を図るためには個人投資家の株式市場への一層の参入が不可欠であるとの認識が高まるとともに、近年多くの企業において、IR活動の対象として個人投資家を重視する傾向が高まっていること等を考慮し、本制度の対象として継続して個人投資家向け情報提供を取り挙げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は 74.1点であった。

評価結果を見ると、本年度も多くの評価対象企業が、個人投資家に対する情報提供を充実するための努力を行っている様子がうかがえた。例えば、具体的評価項目とした「個人投資家向け会社説明会の開催」については、過去1年間の平均開催回数 9.5回（昨年度 7.2回）と昨年度を上回っている。また、全対象企業の 20社中、17社（85%、同 79%）が同説明会の内容をホーム・ページに掲載しており、その充実度や分かりやすさについての評価結果も昨年度とほぼ同水準であった。また、ホーム・ページに個人投資家向けコーナーを設けている企業は、全社中 19社（95%、同 92%）あり、画面構成や分かりやすさ等に工夫が見られるほか、事業報告書等の内容について、写真、グラフ、図表を適度に用いて、個人投資家が知りたいことを分かりやすく、かつ簡潔に説明するといった努力がうかがえる企業が多く見られた。

最後に、本年度の作業には、各専門部会委員およびスコアシート記入者として多数の経験豊富なアナリストが参加されたが、いずれも多忙を極める中で、企業ディスクロージャーの促進・向上、充実を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に当たっていただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。

【各専門部会報告】

15 部会

社名は登記社名に統一し、平成 25 年 10 月 7 日現在である。

[評価実施アナリストの所属会社名は原則として評価実施時点(6月)で統一]

建設・住宅・不動産

大成建設、大林組、清水建設、長谷工コーポレーション、鹿島建設、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、TOTO、LIXIL グループ、リンナイ、三井不動産、三菱地所、東京建物、東急不動産、住友不動産
(計 16 社・コード順)

1. 評価方法等

東急不動産は、経営統合（本年 10 月 1 日）前の当該会社の評価実績である。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	9	36
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	17
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	12
計		24	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 12 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 27 社の 35 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 11 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、1 項目について具体的内容を一部修正し、2 項目の配点を見直して評価を実施した。本年度の総合評価平均点は 70.1 点で昨年度（69.5 点）とほぼ同水準であった。また、昨年度の評価点を下回った企業が下位評価グループに多かったこともあり、総合評価点の標準偏差は 7.9 点と昨年度（6.8 点）より格大した。

業態別の評価平均点を比較して見ると、高得点順に、住宅設備[3社]：72.4 点（昨年度 70.8 点）、住宅・不動産[9社]：72.2 点（同 72.3 点）、建設[4社]：61.8 点（同 61.1 点）と住宅設備が住宅・不動産を僅かながら上回った一方、建設が 2 業態と大きな格差がある状況は変わっていない。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点）（以下省略）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 70%（昨年度 68%）、説明会等が 73%（同 71%）、フェア・ディスクロージャーが 75%（同 75%）、コーポレート・ガバナンス関連が 63%（同 60%）、自主的情報開示が 63%（同 68%）となり、自主的情報開示は昨年度を下回る評価となった。

具体的評価項目を見ると、24 項目のうち、3 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の項目は、16 社中 14 社において 80%台以上の高い得点率（評価点／配点（以下省略））の評価となった。

- ・ 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている（平均得点率 83%、〔得点率 90%：1 社、80%台：13 社〕）

一方、3 項目が平均得点率で 60%以下となり、特に次の項目は得点率が最も低く、さらに大半の企業において昨年度より悪化しており、今後の改善が望まれる。

- ・ 期中の定量的データは開示され、それについての的確な説明が付加されている（平均得点率 58%、〔得点率 50% 台以下：10 社（昨年度 6 社）《昨年度より悪化：14 社》〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

大東建託（ディスクロージャー優良企業〔4回連続5回目〕、総合評価点：84.1点、第1位）

同社は、5分野すべてにおいて第1位となり、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）86%）、**説明会等**（85%）、**フェア・ディスクロージャー**（88%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（81%）、**自主的情報開示**（75%）であった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長がIR担当経験を活かし決算説明会での質疑も自ら対応していることや、社長以下経営陣がIRに理解があり一貫性もある点等、経営陣のIR姿勢が高く評価された。また、IR部門に情報が集積されており、個別取材への対応が十分かつ丁寧である等、同部門の機能が充実していることが極めて高い評価を受けた。さらに、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点に加え、質疑応答が満足できること等、説明会、インタビューにおける開示について高い評価を受けた。また、説明資料に部門別の受注または売上見通しが記載され、かつ部門分けが業態に即していること等、説明資料の開示が詳細で充実している点が高く評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点が高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、具体的な株主還元策の数値目標を明示していることが他社と格差のある極めて高い評価を受けたほか、中長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明している点も評価された。

自主的情報開示においては、平均得点率が最も低水準であった、期中の定量的データの開示について月次情報等を十分に開示していることが高い評価となったほか、CSR報告書・環境報告書の内容が充実している点も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

長谷工コーポレーション（総合評価点：78.3点、第2位←4位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（84%）および**説明会等**（81%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**（81%）が第5位、**コーポレート・ガバナンス関連**（75%）が第2位、**自主的情報開示**（58%）が2社同得点第11位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣が、四半期ごとに積極的に説明に当たると共に別途マンション市場説明会を定期的実施する等、IRに対する姿勢が前向きであり、加えて経営陣全体とのアクセスが容易で個別取材への対応が積極的である点等、経営陣のIR姿勢が高く評価された。また、経営陣とIR部門の連携が取れており、質問に対する回答が迅速かつ丁寧であること等、同部門の体制・機能が充実している点が高い評価を受けた。さらに、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点に加え、質疑応答が満足できること等、説明会、インタビューにおける開示について評価された。また、説明資料に部門別の受注または売上見通しが記載され、かつ部門分けが業態に即している点も高い評価となった。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明していることや、資本政策、株主還元策を客観的かつ合理的に説明している点が評価された。

LIXILグループ（総合評価点：77.8点、第3位←6位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（80%）が第3位、**説明会等**（76%）が2社同得点第5位、**フェア・ディスクロージャー**（84%）が第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（73%）が第3位、**自主的情報開示**（74%）が第2位となった。

同社は、全社の中で唯一、5分野すべての得点率が昨年度を上回り、具体的評価項目でも昨年度と同一の23項目中16項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点の最大アップ（+5.5点）につながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長自ら投資家との対話を重視し、多くの機会を設けて積極的に情報発信している点等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に情報が集積されており、**IR 担当者**と有益なディスカッションができることも高い評価となった。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明をしていることが評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、現在採用しているガバナンス体制について説明していることが高い評価を受けたほか、資本政策、株主還元策を客観的かつ合理的に説明している点も評価された。

自主的情報開示においては、見学会等を積極的に実施し、内容が充実していることが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三菱地所（総合評価点：76.0 点、第 4 位←2 位、分野別では、説明会等（79%）、フェア・ディスクロージャー（82%）第 3 位、自主的情報開示（69%）3 社同得点第 3 位）

同社は、説明資料に部門別の利益率の実績と見通しを十分に開示していることや、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点が高い評価を受けたほか、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることも評価された。また、**フェア・ディスクロージャー**に関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価となった。さらに、見学会等や、CSR 報告書・環境報告書の内容が充実している点が評価された。

大和ハウス工業（総合評価点：75.6 点、第 5 位←3 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（77%）2 社同得点第 4 位、説明会等（76%）2 社同得点第 5 位、フェア・ディスクロージャー（81%）第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連（72%）第 4 位）

同社は、社長が説明会に出席し、実質的な討議に参加していることのほか、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、有益なディスカッションができる点について高い評価を受けた。また、説明資料に部門別の利益率の実績と見通しを十分に開示していること等が評価された。さらに、**フェア・ディスクロージャー**に関してその取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価を受けた。

上記企業のほか、**大成建設**は、5 分野中 4 分野について他の 3 社と共に昨年度を上回り、具体的評価項目でも昨年度と同一の 23 項目中 17 項目の得点率が昨年度を上回る改善となった。特に社長が説明会に出席し、実質的な討議に参加している点について改善が見られ、総合評価点は昨年度比+5.0 点と第 2 位のアップにつながった。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (建設・住宅・不動産)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点25点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目9 (配点36点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目5 (配点17点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目3 (配点10点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目3 (配点12点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(1878) 大東建託	84.1	21.4	1	30.7	1	14.9	1	8.1	1	9.0	1	1
2	(1808) 長谷工コーポレーション	78.3	21.1	2	29.0	2	13.7	5	7.5	2	7.0	11	4
3	(5938) LIXILグループ	77.8	19.9	3	27.5	5	14.2	2	7.3	3	8.9	2	6
4	(8802) 三菱地所	76.0	18.9	6	28.6	3	14.0	3	6.2	10	8.3	3	2
5	(1925) 大和ハウス工業	75.6	19.3	4	27.5	5	13.8	4	7.2	4	7.8	6	3
6	(8801) 三井不動産	74.3	18.8	7	27.8	4	13.5	6	6.4	9	7.8	6	5
7	(1928) 積水ハウス	71.7	17.8	8	26.2	7	12.8	8	6.6	7	8.3	3	10
8	(5947) リンナイ	70.8	19.3	4	25.9	8	11.8	12	6.8	6	7.0	11	8
9	(5332) TOTO	69.1	16.9	11	23.7	14	13.2	7	7.0	5	8.3	3	7
10	(1801) 大成建設	67.1	17.0	10	24.8	10	12.2	10	5.4	13	7.7	8	15
11	(8815) 東急不動産	65.6	17.7	9	24.3	11	12.1	11	6.1	11	5.4	16	12
12	(1802) 大林組	65.2	15.1	14	25.4	9	12.3	9	5.0	14	7.4	10	14
13	(8830) 住友不動産	63.5	16.4	13	24.0	12	11.1	13	6.5	8	5.5	15	11
14	(8804) 東京建物	62.6	16.6	12	22.6	16	11.1	13	6.1	11	6.2	14	13
15	(1803) 清水建設	59.8	13.3	15	24.0	12	10.5	16	4.5	15	7.5	9	16
16	(1812) 鹿島建設	54.0	9.9	16	22.7	15	10.7	15	4.1	16	6.6	13	17
	評価対象企業評価平均点	70.1	17.5		26.1		12.7		6.3		7.5		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.9点、昨年度は6.8点であった。

25年度評価項目および配点(建設・住宅・不動産)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点 (25点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどの程度評価しますか。		10
② 社長は説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加していますか。		5
(2) IR部門の機能		
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。		5
(3) IRの基本スタンス		
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。		5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示		
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。		5
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。		5
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示		
① 部門別(注1)の受注または売上見通し(注2)が記載され、かつ部門分けは各々の業態に即したものですか。		5
② 部門別(注1)の利益率の実績と見通しは十分に開示されていますか。		3
③ 連結セグメント情報の分け方は企業分析にとって十分満足できるものですか。		4
④ 企業分析に必要な連結子会社・関係会社・SPC等の資産・負債・収益の状況が十分に説明されていますか。		5
⑤ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく説明されていますか。		3
(3) 四半期情報開示		
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 [開催あり:2点 開催なし:0点]		2
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報(単体の業績動向等を含む)が十分に開示されていますか。		4
3. フェア・ディスクロージャー		配点 (17点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。		4
② 投資家にとって重要と判断される事項(注3)の開示は迅速に行われていますか。		4
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
・ 決算説明会資料や期中のデータがタイムリーに入手が可能ですか。		5
(3) 説明会のリプレイは電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [できる:1点 できない:0点]		1
(4) 英文による情報提供		
・ 英文による情報提供はタイムリーで、内容も充実していますか。		3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策		
・ 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていますか。		3
(2) 目標とする経営指標等		
・ 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されていますか。		4
(3) ガバナンス体制について		
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。		3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (12点)
① 期中の定量的データは開示され、それについての確かな説明が付加されていますか。		5
② 生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]		5
③ CSR報告書・環境報告書の内容は充実していますか。		2

(注1)「部門別」については、業態により・

ゼネコン:国内・海外および官・民・土・建・その他、住宅:戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、不動産:分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、住宅設備:製品別・その他・・・と読み替えて下さい

(注2)「受注または売上見通し」については、業態により・

建設・住宅については受注・売上げの見通し、不動産・住宅設備については売上げの見通し・・・と読み替えて下さい

(注3)投資家にとって重要と判断される事項は、東証のTDネットへの登録を含む下記のような事項です。

例えば・・・受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等である。

建設・住宅・不動産専門部会委員

部会長	高木 敦	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	大谷 洋司	トイ証券
	伊藤 昌哉	みずほ投信投資顧問
	沖野 登史彦	UBS 証券
	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
	水谷 敏也	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	村端 誠	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト (35名)

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	高木 敦	モルガン・スタンレー MUFG 証券
穴井 宏和	JP モルガン証券	竹川 克彦	三井住友信託銀行
伊藤 昌哉	みずほ投信投資顧問	寺岡 秀明	大和証券
及川 剛明	野村証券	寺田 修輔	シティグループ証券
大谷 洋司	トイ証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
大室 友良	モルガン・スタンレー MUFG 証券	錦織 正明	シュローター・インベストメント・マネジメント
沖野 登史彦	UBS 証券	橋本 浩	富国生命投資顧問
小澤 公樹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	引地 真二	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
押尾 友貴	岡三証券	福島 大輔	野村証券
尾原 香代子	アライアンス・パートナーズ	堀部 吉胤	ティー・アイ・ダウリュ
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
木村 勝	岩井コスモ証券	水谷 敏也	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
木村 義純	シティグループ証券	水野 年章	農林中金全共連アセットマネジメント
櫻本 恵	みずほ信託銀行	村端 誠	野村アセットマネジメント
島田 秀明	富国生命投資顧問	望月 政広	クレディ・スイス証券
嶋田 利佳	JP モルガン・アセット・マネジメント	安田 圭介	みずほ信託銀行
下川 寿幸	立花証券	八掛 達格	三井住友アセットマネジメント
新川 淳之介	三井住友アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食 品

日本水産、日清製粉グループ本社、山崎製パン、カルビー、ヤクルト本社、明治ホールディングス、雪印メグミルク、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラウエスト、伊藤園、不二製油、キッコーマン、味の素、キューピー、ハウス食品グループ本社、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業 (計 21 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに**カルビー**を加え、計 21 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	10	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	8
計		29	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 19 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 27 社の 28 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 18 頁参照)。

本年度は、具体的評価項目のうち、英文による情報提供について新たな内容に変更すると共に、一部の項目の配点を見直して評価を実施した。本年度の総合評価平均点は 60.8 点 (昨年度は 57.8 点) となった。ちなみに、総合評価点の標準偏差を見ると、新規対象企業を除く、上位 9 社すべての評価点が昨年度を上回った半面、下回った企業は、下位グループの半数を占めたこと等から、本年度は 13.6 点で昨年度 (10.9 点) より拡大した。

評価項目の 5 分野について平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 63% (昨年度 61%)、**説明会等**が 62% (同 59%)、**フェア・ディスクロージャー**が 74% (同 63%)、**コーポレート・ガバナンス関連**が 54% (同 50%)、**自主的情報開示**が 49% (同 51%) となり、昨年度と同様、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的情報開示**の水準は低く格差も大きい。具体的評価項目について見ると、29 の評価項目のうち、5 項目が平均得点率で 80% 以上となり、特に次の①②は、全社の得点率 (評価点/配点 (以下省略)) が満点を含む 80% 以上、③は 4 社を除く多数が満点評価となった。

- ① 投資家にとって重要と判断される事項について遅滞なく開示しかつ十分に説明 (平均得点率 90%、[満点: 8 社、90%: 12 社、80%: 1 社、(全社)])
- ② 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている (同 90%、[満点: 10 社、90%: 8 社、80%: 3 社、(全社)])
- ③ 本決算の説明会を決算発表を含めて 3 営業日以内に実施 (同 80%、[満点: 17 社、0 点: 4 社])

一方、各分野で平均得点率が最も低水準である次の 5 項目 (分野順) は、相対的に低水準の得点率にとどまっている各企業 (⑤はほぼ全社) において、IR 部門が能動的に対応するなど今後一層の改善が強く望まれる。特に、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、本年度も 5 項目すべてが低水準の評価であった。

- ① IR 部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジ（平均得点率 45%、〔得点率 50 台以下：16 社〕）
- ② キャッシュフロー計算書の実績と見通しを分かりやすく説明（同 46%、〔50%台以下：16 社〕）
- ③ ホーム・ページで、決算説明会等の質疑応答の内容が分かる（同 55%、〔0 点：9 社（満点 12 社、うち改善 3 社、新規 1 社）〕）
- ④ 外部の声を十分に考慮した経営ができています（同 50%、〔50%台以下：14 社〕）
- ⑤ 有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等の開催（同 33%、〔50%台以下：20 社、60%：1 社〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

アサヒグループホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔11 回連続 11 回目〕、総合評価点：84.6 点、第 1 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉85%）および説明会等（80%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャー（99%）が 4 社同得点第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連（90%）が第 2 位、自主的情報開示（70%）が第 3 位となった。

同社は、本年度発表した中期経営計画で、企業価値経営を掲げ、資本政策や経営効率化に取り組む姿勢を示したことが高い評価につながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが決算説明会に出席し、丁寧に分かりやすく説明していることのほか、投資家の目線でディスカッションができることや、IR 部門への権限委譲ができています点等、経営陣の IR への積極的な取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 担当者が経営の方向性について良く理解し適切な情報開示を行っていること等、同部門の機能が充実している点も高く評価された。加えて、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮をしている点等、IR の基本スタンスも高い評価を受けた。

説明会等においては、決算短信および同補足説明資料が充実していることが高く評価され、特に、主な連結対象会社の売上、営業利益を十分に記載している点が唯一満点となった。また、同資料の中で、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を開示している点も高い評価を受けた。グローバル展開が進む中で海外子会社の情報開示の向上を期待するとのアナリストの声が引き続きあったが、新規進出国の業界情報に関する開示が充実していることは評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、全項目とも極めて高い得点率の評価となり、また、コーポレート・ガバナンス関連においては、この分野全体について高い評価を受けた。自主的情報開示においては、有益な月次情報のタイムリーかつ積極的な開示が極めて高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

味の素（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業〔3 回連続第 2 位〕、総合評価点：82.9 点）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（84%）が第 2 位、説明会等（76%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャー（100%）が 3 社同得点第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連（92%）が第 1 位、自主的情報開示（58%）が 2 社同得点第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップがアナリスト・投資家の意見を聞こうとする姿勢をもって決算説明会およびアナリストミーティングに積極的に出席し、明確な企業価値向上策を示していることや、IR 部門への権限委譲ができています点等、経営陣の IR への積極的な取組姿勢が極めて高く評価された。また、IR 担当者が経営陣の代弁者として経営戦略などを理解し必要な情報の整備が図られている点も高い評価を受けた。さらに、低採算事業の積極的な開示や対応が評価された。

説明会等においては、決算短信および同補足説明資料で、実情に応じた売上区分を明示していることや、実績の利益増減要因を分析に有用な形で分かりやすく記載している点等が評価された。また、業界情報に関する開示が充実していることも評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページで決算説明会等での質疑応答の内容が分かるように改善した（他に 2 社）こと等、この分野のすべての項目について別の他の 2 社と共に満点評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、外部の声を十分に考慮した経営ができています点や、ROE 経営・投

資抑制など効率性への追求が明確であること等、すべての項目でトップの極めて高い評価を受けた。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

キリンホールディングス（総合評価点：78.2点〔昨年度比+10.9点《第2位》〕、2社同得点第3位←4位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（72%）が第7位、**説明会等**（78%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**（99%）が4社同得点第4位、**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）が第5位、**自主的情報開示**（71%）が第2位となった。

同社は、5分野すべての得点率が昨年度を上回る改善が見られ（同様の改善は他に4社）、上記のような評価点アップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**説明会等**に関しては、主な連結対象会社の売上、営業利益を十分に記載していることが高い評価となった。また、実績および見通しの利益増減要因を分析に有用な形で分かりやすく記載している点等が評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、全項目とも高い得点率の評価となり、また、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、株主還元策および資本政策に対する考え方が十分に説明されていることが高い評価を受ける等、この分野の得点率が昨年度に比し、最大アップ（23ポイント）の改善となった。

自主的情報開示においては、携わっている業界の基礎情報を分かりやすく、開示している点がトップの高い評価となった。

日本たばこ産業（総合評価点：78.2点、2社同得点第3位←3位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（73%）が第6位、**説明会等**（75%）が第4位、**フェア・ディスクロージャー**（99%）が4社同得点第4位、**コーポレート・ガバナンス関連**（85%）が第3位、**自主的情報開示**（69%）が第4位となった。

同社は、本業界において唯一IFRSを導入し、国際比較を容易にする情報開示を行っていることが高く評価された。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**説明会等**に関しては、セグメント別の売上、営業利益を十分に記載していることや、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を開示している点も高い評価を受けた。**フェア・ディスクロージャー**に関しては、全項目とも高い得点率の評価となり、また、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、株主還元策および資本政策に対する考え方が説明されていること等、すべての項目で総じて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、対象企業の平均得点率が最も低水準（33%）となった、有益な工場見学会等の開催に関し、国内外の工場見学会や海外たばこ事業説明会の開催が有益であった点で、唯一60%の得点率となった。

日本ハム（総合評価点：77.8点〔昨年度比+12.5点《第1位》〕、第5位←5位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（82%）が第3位、**説明会等**（74%）が第5位、**フェア・ディスクロージャー**（68%）が第14位、**コーポレート・ガバナンス関連**（84%）が第4位、**自主的情報開示**（73%）が第1位となった。

同社は、5分野のうち4分野の得点率が昨年度を上回る改善が見られ（同様の改善は他に1社）、上記のような評価点アップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣と議論ができるようになった点のほか、社長にアナリストや投資家の意見を聞こうとする姿勢があること等、経営陣のIRへの積極的な取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門が経営の方向性について理解している点等、同部門の機能についても高く評価された。

説明会等に関しては、本決算の説明会を決算発表日から、3営業日以内実施する改善（他に1社）をしたことのほか、実績および見通しの利益増減要因を、分析に有用な形で分かりやすく記載している点等が高い評価を受けた。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点も高く評価された。**コーポレート・ガバナンス関連**においては、資本政策に対する考え方や重視する経営指標とその目標、それを採用する理由等を説明していること等、すべての項目で総じて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、有益な月次情報の積極的な開示が高く評価された。

以上のほか、ホーム・ページで決算説明会等での質疑応答の内容が分かるように改善し（他に2社）満点評価となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

カルビー（総合評価点：73.0点、第6位←新規）

同社は、上場後2年目の情報開示等の評価であるが、ディスクロージャーの重要性を十分認識していたことから、上位の評価につながった。具体的には、経営トップが説明会およびアナリストミーティングに積極的に出席し、投資家の関心事等について自らの言葉で有意義なディスカッションができることが極めて高いトップの評価を受けた。また、IR部門が経営戦略等を理解している点等、経営陣の代弁者として機能している点も高く評価された。さらに、フェア・ディスクロージャーに関しては、この分野のすべての項目について他の2社と共に満点評価となった。加えて、営業利益率の向上への強いこだわりなど、経営の効率性に対する経営陣の執着度に関して極めて高い評価を受けた。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (食品)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目6 (配点 32点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目10 (配点 30点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目5 (配点 10点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目5 (配点 20点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目3 (配点 8点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(2502) アサヒグループホールディングス	84.6	27.1	1	24.0	1	9.9	4	18.0	2	5.6	3	1
2	(2802) 味の素	82.9	27.0	2	22.9	3	10.0	1	18.4	1	4.6	5	2
3	(2503) キリンホールディングス	78.2	22.9	7	23.3	2	9.9	4	16.4	5	5.7	2	4
3	(2914) 日本たばこ産業	78.2	23.3	6	22.5	4	9.9	4	17.0	3	5.5	4	3
5	(2282) 日本ハム	77.8	26.3	3	22.1	5	6.8	14	16.8	4	5.8	1	5
6	(2229) カルビー	73.0	25.5	4	20.1	8	10.0	1	14.5	6	2.9	18	未実施
7	(2801) キッコーマン	66.7	21.2	8	21.3	6	8.0	11	13.0	7	3.2	16	6
8	(2593) 伊藤園	62.5	23.4	5	17.6	14	4.9	16	12.5	8	4.1	9	10
9	(2809) キユーピー	61.3	18.0	13	19.3	10	9.9	4	10.7	10	3.4	13	11
10	(2871) ニチレイ	60.3	20.0	10	20.2	7	4.9	16	12.2	9	3.0	17	12
11	(2579) コカ・コーラウエスト	58.2	20.2	9	18.3	11	7.9	12	8.5	12	3.3	15	9
12	(2897) 日清食品ホールディングス	58.0	16.0	18	19.5	9	9.7	9	8.4	13	4.4	7	14
13	(2810) ハウス食品グループ本社	57.7	17.4	14	17.8	13	10.0	1	8.3	14	4.2	8	8
14	(2267) ヤクルト本社	53.1	16.1	17	18.3	11	8.7	10	6.4	17	3.6	11	13
15	(2607) 不二製油	50.4	19.5	11	17.0	15	2.9	20	8.7	11	2.3	20	18
16	(2269) 明治ホールディングス	48.7	14.9	21	13.2	20	9.8	8	6.2	19	4.6	5	17
16	(2270) 雪印メグミルク	48.7	16.5	16	14.4	18	7.9	12	6.3	18	3.6	11	15
18	(2875) 東洋水産	47.1	17.1	15	15.4	17	3.7	19	7.2	16	3.7	10	21
19	(2002) 日清製粉グループ本社	47.0	18.5	12	13.9	19	3.9	18	8.2	15	2.5	19	16
20	(2212) 山崎製パン	43.9	15.8	19	16.6	16	2.8	21	5.3	20	3.4	13	19
21	(1332) 日本水産	40.6	15.8	19	11.9	21	6.7	15	4.4	21	1.8	21	20
	評価対象企業評価平均点	60.8	20.2		18.6		7.4		10.7		3.9		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は13.6点、昨年度は10.9点であった。

25年度評価項目および配点(食品)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどの程度評価しますか。(情報集積の支援、IR部門への権限委譲等)	8
② 社長は説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができますか。	8
(2) IR部門の機能	
① IR担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していますか。	6
② IR部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれますか。	2
(3) IRの基本スタンス	
① 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	4
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 決算発表等	
① 直近2回の決算発表(四半期決算を含む)は決算期末後迅速に行われていますか。【2回合算評価】 [直前期=30日以内:1点、40日以内:0.5点、その他:0点] [前々期=30日以内:1点、40日以内:0.5点、その他:0点]	2
② 本決算の説明会が決算発表日を含めて3営業日以内に実施されていますか。[されている:1点 されていない:0点]	1
(2) 決算短信および同補足説明資料(同時に、TDネットまたはホーム・ページ掲載ベース)における開示	
① 実績および見通しの利益増減要因は、分析に有用な形で分かりやすく、かつ十分に記載されていますか。	5
② 次期の連結業績予想にかかわる営業外収支、特別損益のみならず、法人税等、少数株主損益の見通し、ならびに予想の主な根拠が十分に記載されていますか。	5
③ キャッシュフロー計算書の実績のみならず、見通しについても分かりやすく説明されていますか。	5
④ カテゴリー別、チャンネル別、容器別、家庭用・業務用別等の各社の実情に応じた売上区分が明示されていますか。	2
⑤ 特殊要因(のれんや年金数理差異の償却、会計制度変更の影響等)を除いた、実質的な利益の実績と予想が十分に記載されていますか。[重要な特殊要因がない場合には満点評価とする]	2
⑥ 主な連結対象会社または詳細なセグメント別の売上、営業利益、経常利益等が十分に記載されていますか。	2
⑦ BSの主要項目に大きな変動がある場合の増減理由は十分に記載されていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が、決算短信および同補足説明資料(同時に、TDネットまたはホーム・ページ掲載ベース)の中で、十分に開示されていますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携、事故・災害、リスク情報等)の開示は、遅滞なくかつ十分に説明されていますか。[当該事項の発生がなかったと思う場合には満点評価とする] [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① 決算説明会等での会社側の説明内容が分かるようになっていきますか。 [動画またはテキストまたは音声いずれか:3点、いずれもなし:0点]	3
② 決算説明会等での質疑応答の内容が分かるようになっていきますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ ホーム・ページ上で「決算短信、アニュアルレポート、決算説明会資料」の英文情報が開示されていますか。[各1点]	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
① 資本政策に対する考え方が十分に説明されていますか。	4
② 株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	4
③ 重視する経営指標とその目標、それを採用する理由等が十分に説明されていますか。	4
④ 経営の効率性に対する経営陣の執着度は十分評価できるものですか。	4
⑤ 外部の声を十分に考慮した経営ができていると思いますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 有益な月次情報がタイムリー、かつ積極的に開示されていますか。(E-mail、FAX、ホーム・ページ等で)	2
② 携わっている業態または業界の基礎情報を分かりやすく、かつ積極的に開示していますか。	3
③ 有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を開催していますか。[過去1年間を目安に評価]	3

食品専門部会委員

部会長	山崎 徳司	大和証券
部会長代理	下田 曜弘	三井住友信託銀行
	沖平 吉康	SMBC 日興証券
	佐治 広	みずほ証券
	マイケル ジェイコブス	T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 東京支店
	矢野 節子	みずほ信託銀行
	山口 慶子	ゴールドマン・サックス証券

評価実施アナリスト (28名)

肥土 恵子	三井住友アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
飯島 真樹	三菱 UFJ 投信	角田 律子	JP モルガン証券
池野 智彦	エース経済研究所	角山 智信	東海東京調査センター
沖平 吉康	SMBC 日興証券	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
梶 昌隆	DIAM アセットマネジメント	野崎 弘明	三菱 UFJ 信託銀行
川崎 さつき	クレディ・スイス証券	早野 貴之	パークレイズ証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	藤田 潤	大和住銀投信投資顧問
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	三浦 信義	シティグループ証券
笹本 和彦	ニッセイ アセット マネジメント	皆川 良造	野村証券
佐治 広	みずほ証券	矢野 節子	みずほ信託銀行
マイケル ジェイコブス	T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 東京支店	山口 慶子	ゴールドマン・サックス証券
下田 曜弘	三井住友信託銀行	山口 芳明	SMBC フレンド 調査センター
是津 貴之	朝日ライフ アセットマネジメント	山崎 徳司	大和証券
高木 美香	東京海上アセットマネジメント投信	横山 瑞穂	アムンティ・ジャパン

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学・繊維

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、大陽日酸、カネカ、三井化学、JSR、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日立化成
(計 18 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに**ダイセル**を加え、計 18 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	35
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	10
計		21	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 25 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 31 社の 36 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 24 頁参照）。

本年度は、具体的評価項目のうち 1 項目について内容の修正を行い、2 項目の配点を変更して評価を実施した。

本年度の総合評価平均点は 73.0 点で昨年度（73.5 点）とほぼ同水準であった。なお、昨年度を下回った企業が上位評価企業に多かったこともあり、総合評価点の標準偏差は 5.0 点と昨年度（6.1 点）より縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 76%（昨年度 76%）、**説明会等**が 73%（同 75%）、**フェア・ディスクロージャー**が 79%（同 77%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 68%（同 71%）、**自主的な情報開示**が 59%（同 58%）となり、全分野とも昨年度とほぼ同水準となったが、依然として**自主的な情報開示**の水準は他の分野に比べ格差が大きい。

具体的評価項目について見てみると、21 項目のうち 6 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の 3 項目では、①は全社の得点率（評価点／配点〈以下省略〉）が 80%以上、②③は満点あるいは 90%台の得点率の企業が多数見られた。

- ① ホーム・ページを利用した有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）（平均得点率 87%〔得点率 80%以上：全社〈90%台：6 社〉〕）
- ② 四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）の開催（同 85%〔満点：15 社〈改善 1 社〉〕）
- ③ IR 部門へのアクセスの容易性（同 88%〔90%台：11 社〕）

一方、次の項目は昨年度からは若干の改善が見られたものの、依然として平均得点率が最も低く、ほぼ全社において今後一層の改善が強く望まれる。

- ・ 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し内容が充実（平均得点率 48%（昨年度：40%、一昨年度：53%）、〔得点率 50%未満：11 社〈上位 3 社：70%台〉〕）

なお、評価実施アナリストの意見を見ると、大半の企業で経営トップがミーティングに出席し、自社の状況、

今後の方針を語っている姿勢を評価する声が多かった。

(2) 上位個別企業の評価概要

旭化成（ディスクロージャー優良企業〔10回連続10回目〕、総合評価点：83.7点、第1位）

同社は、5分野すべてにおいて第1位となり、経営陣のIR姿勢等（得点率（以下省略）85%）、説明会等（83%）、フェア・ディスクロージャー（89%）、コーポレート・ガバナンス関連（78%）、自主的情報開示（79%）であった。

各分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣がIRの重要性を認識しており、IR部門の十分な人員配置、同部門への権限移譲や積極的な情報発信に努めていること等、経営陣のIRへの取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、担当者とは有益なディスカッションができる等、同部門の対応が優れている点が高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IRの基本スタンスについても高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会に各事業部門の担当者が出席し議論ができる等、同説明会における十分な説明や、インタビューにおける十分な補足説明が高い評価を受けた。また、決算短信・添付資料と同時に、分析に必要かつ十分な補足資料が、TD ネット経由で入手できること等、説明資料等についても高く評価された。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること等、四半期情報開示についても極めて高い評価となった。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等や説明会のリプレイ、質疑応答まで含めた説明会の議事録の情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中長期的な目標と関連する定性・定量情報の開示が充実している点が高く評価された。

自主的情報開示においては、評価対象企業の平均得点率が最も低水準（48%）であった工場見学会等に関し、タイ工場見学会を実施し、かつその内容が充実していたことで、他の2社と共に、その他各社と格差のある得点率（75%）でトップの評価となった。またE-mailを利用して有用な情報提供を行っている点も高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

昭和電工（総合評価点：79.3点、第2位←2位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（83%）が2社同得点第2位、説明会等（82%）およびフェア・ディスクロージャー（85%）が第2位、コーポレート・ガバナンス関連（72%）が2社同得点第8位、自主的情報開示（59%）が第10位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣がIRの重要性を認識しており、IR部門に十分な人員配置を行っていること等、全体として経営陣のIRへの取組姿勢が評価を受けた。また、IR部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積されており、担当者の積極的な情報開示と豊富な知識に基づく解説が行われ、理解が促進される等、同部門の機能が充実している点が高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも高い評価となった。

説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実していること等、説明会、インタビューにおける開示に関して高い評価を受けた。また、決算短信・添付資料と同時に、分析に必要かつ十分な補足資料が、TD ネット経由で入手できることが高く評価され、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点も高い評価となった。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。

JSR（総合評価点：78.2点、第3位←6位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（83%）が2社同得点第2位、説明会等（78%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（80%）が2社同得点第7位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）が第2位、自主的情報開示（64%）が第6位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップのビジョンがクリアでかつ事業全体に通じており、トップミーティングなどで積極的にディスカッションしているこ

とが高い評価を受けた。また、IR部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積されており、担当者と有意義なディスカッションができることが高く評価されたほか、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示している点も高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会での説明が十分であることや、決算短信・添付資料と同時に、分析に必要なかつ十分な補足資料が、TD ネット経由で入手できる点が評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていることが高い評価となった。

以上のほか、フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢が高い評価を受け、自主的情報開示においては、四日市工場見学会を実施し、かつその内容が充実していたことで、他の2社と共に、その他各社と格差のある得点率（同社：昨年度比+40ポイント）の評価となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

積水化学工業（総合評価点：76.5点、第5位←8位《3ランクアップ》）

同社は、全体的に平均得点率が高水準であった項目以外で、次の項目について高い評価を受けた。

- ① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、担当者と有意義なディスカッションができること
- ② 低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること
- ③ インタビューにおける補足説明が十分であること
- ④ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していること
- ⑤ 説明会のリプレイ（質疑応答、議事録を含む）が速やかにウェブキャストで視聴等ができること

エア・ウォーター（総合評価点：72.8点〔昨年度比+4.8点《第1位》〕、第10位←14位《4ランクアップ》）

同社は、5分野すべての得点率が昨年度を上回り、具体的評価項目でも21項目中17項目が昨年度の得点率を上回る改善となり、総合評価点と順位の最大アップにつながった。特に、IR部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積されており、担当者と有意義なディスカッションができることや、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示している点が高い評価を受け、株主還元策が説明されている点も評価された。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (化学・繊維)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目6 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目6 (配点35点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目4 (配点15点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目2 (配点10点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目3 (配点10点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(3407) 旭化成	83.7	25.5	1	29.2	1	13.3	1	7.8	1	7.9	1	1
2	(4004) 昭和電工	79.3	24.8	2	28.6	2	12.8	2	7.2	8	5.9	10	2
3	(4185) JSR	78.2	24.8	2	27.4	3	12.0	7	7.6	2	6.4	6	6
4	(4208) 宇部興産	76.9	24.2	5	27.3	4	12.3	4	7.3	5	5.8	11	3
5	(4204) 積水化学工業	76.5	23.9	7	26.9	5	12.3	4	7.3	5	6.1	7	8
6	(4005) 住友化学	75.6	23.0	9	26.2	7	12.4	3	7.4	4	6.6	3	4
7	(4183) 三井化学	74.7	23.4	8	26.1	8	12.1	6	6.5	13	6.6	3	7
8	(3402) 東レ	74.0	22.8	10	26.0	10	11.9	9	6.8	11	6.5	5	5
9	(4063) 信越化学工業	73.2	24.0	6	26.1	8	11.4	13	4.9	18	6.8	2	10
10	(4088) エア・ウォーター	72.8	22.0	12	26.4	6	11.4	13	7.5	3	5.5	14	14
11	(4217) 日立化成	72.4	22.4	11	25.7	11	11.9	9	6.7	12	5.7	12	12
12	(4202) ダイセル	72.1	24.3	4	23.5	16	11.3	15	7.0	10	6.0	8	未実施
13	(4188) 三菱ケミカルホールディングス	71.4	21.7	13	24.9	14	12.0	7	7.2	8	5.6	13	9
14	(3401) 帯人	69.2	20.9	16	25.3	12	11.5	12	6.1	16	5.4	15	11
15	(4118) カネカ	69.1	20.6	17	25.0	13	11.3	15	6.2	15	6.0	8	15
16	(3405) クレ	68.3	21.7	13	22.4	17	11.7	11	7.3	5	5.2	16	13
17	(4091) 大陽日酸	66.6	21.4	15	23.6	15	11.1	18	6.4	14	4.1	18	16
18	(4042) 東ソー	62.6	19.3	18	22.1	18	11.2	17	5.3	17	4.7	17	17
	評価対象企業評価平均点	73.0	22.8		25.7		11.8		6.8		5.9		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.0点、昨年度は6.1点であった。

25年度評価項目および配点(化学・繊維)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。(IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	7
② 経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	7
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門へのアクセスの容易性はどうか。	4
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (35点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2) 説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、TDネット経由で入手できますか。	7
② 説明会資料等において投資家が求める情報が十分に開示されていますか。	7
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。[開催あり:2点 開催なし:0点]	2
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示は、遅滞なく行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等)を行っていますか。	3
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイ(質疑応答、議事録を含む)は、速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	4
② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	3
③ E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3

化学・繊維専門部会委員

部会長	金井 孝男	シテイクグループ証券
部会長代理	横尾 尚昭	ゴールドマン・サックス証券
	川上 治	三井住友信託銀行
	澤砥 正美	クレディ・スイス証券
	渋谷 宗男	大和住銀投信投資顧問
	竹内 忍	SMBC 日興証券
	山田 幹也	バークレイズ証券

評価実施アナリスト（36名）

朝倉 香織	第一生命保険	清宮 啓嗣	ニッセイアセットマネジメント
五十嵐 貴宏	富国生命投資顧問	高橋 俊郎	ティー・アイ・ダウリュ
池田 篤	シテイクグループ証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
石原 耕一	アトバンスト・リサーチ・ジャパン	竹内 忍	SMBC 日興証券
井谷 昌展	JP モルガン・アセット・マネジメント	仲田 育弘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
今津 拓洋	みずほ信託銀行	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント投信
上野 賢司	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	野口 英彦	DIAMアセットマネジメント
梅林 秀光	大和証券	花城 輝樹	りそな銀行
榎本 尚志	リリッチ日本証券	福永 幸彦	立花証券
大谷 洋司	トイ証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
大藤 修義	みずほ信託銀行	村端 誠	野村アセットマネジメント
加賀 章弘	アライアンス・パートナーズ	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
金井 孝男	シテイクグループ証券	山田 幹也	バークレイズ証券
川上 治	三井住友信託銀行	横尾 尚昭	ゴールドマン・サックス証券
桑原 明貴子	リリッチ日本証券	吉田 篤	みずほ証券
佐藤 和佳子	みずほ証券	吉田 正夫	CLSA 証券
澤砥 正美	クレディ・スイス証券	渡辺 一茂	日興アセットマネジメント
渋谷 宗男	大和住銀投信投資顧問	渡部 貴人	SMBC 日興証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

協和発酵キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬、田辺三菱製薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、久光製薬、参天製薬、ツムラ、テルモ、第一三共、大塚ホールディングス、大正製薬ホールディングス、シスメックス (計 17 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに小野薬品工業を加え、計 17 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	33
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	11
計		20	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 31 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 29 社の 35 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 30 頁参照)。

本年度は、具体的評価項目のうち 1 項目について内容を若干修正し、4 項目の配点を変更して評価を実施した。

本年度は、新規対象企業を除く 16 社のうち 15 社の総合評価点が昨年度を上回り、中には上げ幅の大きい企業も見られたこと等から、総合評価平均点は、昨年度より 2.5 点高い 73.2 点となった。ちなみに総合評価点の標準偏差は 6.3 点と昨年度と同じであった。

評価項目の 5 分野について平均得点率を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74% (昨年度 67%)、**説明会等**が 75% (同 74%)、**フェア・ディスクロージャー**が 84% (同 83%)、**コーポレート・ガバナンス関連**が 67% (同 65%)、**自主的な情報開示**が 65% (同 65%) となり、昨年度に比べ**経営陣の IR 姿勢等**の水準が大きく上昇した。

具体的評価項目について見ると、20 項目のうち、7 項目が平均得点率で 80% を上回り、特に次の①②は全社で、③④は 2 社を除く企業で高い水準の得点率 (評価点/配点 (以下省略)) の評価となった。

① ホーム・ページを利用した有用な情報提供 (平均得点率 90% [得点率 90% 台 : 10 社、80% 台 : 7 社⇒全社])

② 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている (同 85%、[90% 台 : 2 社、80% 台 : 15 社⇒全社])

③ 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催し、内容が有益 (同 85% [90% 台 : 9 社、80% 台 : 7 社⇒16 社 (1 社 50%)])

④ 投資家にとって重要と判断される事項 (業績変動、新薬開発・審査状況、新技術、合併・提携等) の開示を、遅滞なく十分に、かつ公平に実施 (同 85% [90% 台 : 4 社、80% 台 : 12 社⇒16 社 (1 社 70%)])

一方、次の項目は、依然として平均得点率が最も低く、一部の企業にあってはさらなる努力が望まれる。

・ 会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設け、その内容の有益性 (平均得点率 60% 《昨年度 63%》、[得点率 50% 未満 : 3 社 《昨年度 3 社》])

(2) 上位個別企業の評価概要

アステラス製薬（ディスクロージャー優良企業〔4回連続4回目〕、総合評価点：84.2点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%）および**説明会等**（83%）が第1位、**フェア・ディスクロージャー**（92%）が2社同得点第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）が第1位、**自主的情報開示**（73%）が2社同得点第5位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、IRの重要性を認識し、人員配置・権限移譲等バランスのとれたIR体制を常に維持していること等、経営陣のIRへの取組姿勢が極めて高い評価を受けた。また、IR担当者の情報集積度と説明力の高さ等、IR部門の機能が充実していることも極めて高く評価された。さらに、会社にとってネガティブな情報についても開示を行い、今後の改善の展望を示していることや、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされている点等、IRの基本スタンスも極めて高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会での説明ならびにインタビューでの国内外における期中の状況等に関する補足説明が十分であることが高い評価を受けた。また、説明会資料等において、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益である点も高く評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策についての明確な方針を出していることや、中期経営計画の数値を公表し進捗状況等のフォローをしている点が高く評価された。

自主的情報開示に関しては、アニュアルレポート、数字に見る「医療と医薬品」の内容が充実し有益である点が高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

シスメックス（総合評価点：80.1点、第2位←2位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（86%）が第2位、**説明会等**（80%）が第3位、**フェア・ディスクロージャー**（86%）が4社同得点第8位、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）が2社同得点第4位、**自主的情報開示**（73%）が2社同得点第5位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIRを極めて高く位置づけ、社長が説明会やアナリストミーティング等で経営戦略を積極的に説明するなど有意義なディスカッションができることが高い評価を受けた。また、IR部門の機能が充実していることや、会社にとってネガティブな情報についても開示を行い、今後の改善の展望を示している点も高く評価された。

説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることが高い評価を受けた。また、決算説明会における説明が十分であると共に、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益である点も高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策を説明していることが評価された。

塩野義製薬（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：79.1点、〔昨年度比+9.5点<<第1位>>〕、第3位←9位《6ランクアップ》）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（83%）が第3位、**説明会等**（79%）が第4位、**フェア・ディスクロージャー**（86%）が4社同得点第8位、**コーポレート・ガバナンス関連**（71%）が第6位、**自主的情報開示**（75%）が2社同得点第3位となった。

同社は、5分野すべての得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の最大アップにつながった（5分野すべて改善は他に1社）。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が定期的な説明会に出席し、経営方針等を明確に説明していることや、IR部門への適正な人員配置を行う等、全体として経営陣のIR姿勢が改善している（昨年度比+24ポイント）点が高く評価された。さらに、東京のIRスタッフが拡充されアクセスが容易になる等、同部門の機能の充実についても高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明ならびにインタビューにおける補足説明が十分であったほか、

決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益である点も高い評価となった。

自主的情報開示に関しては、会社主催のR&Dミーティング、H I V事業に関する説明会を実施し、有益であったことが評価された。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

エーザイ（総合評価点：77.8点、第4位←3位）

同社は、社長自らIRに熱心で、説明会等に出席して経営方針について明確に説明し、率先してディスカッションを行っていることが高い評価を受けた。また、資本政策、株主還元策についての明確な方針を出している点や、現在採用しているガバナンス体制についての説明についても高い評価となった。加えて、説明会のリプレイがウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能である点も極めて高く評価された。

大日本住友製薬（総合評価点：77.6点、第5位←4位）

同社は、社長が説明会に出席し、有意義なディスカッションをしていることが高い評価を受けた。また、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益であること等、説明資料等における開示について高い評価を受けたほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点も高く評価された。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていることも極めて高い評価となった。

上記企業のほか、**中外製薬**は、会社主催のIFRS、抗体技術などのテーマ性のある説明会や、アニュアルレポートの内容が充実している点等、自主的情報開示の分野においてトップの高い評価となった。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (医薬品)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目5 (配点26点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目6 (配点33点)		3. フェア・ディー ローシャー 評価項目4 (配点12点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目3 (配点18点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目2 (配点11点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(4503) アステラス製薬	84.2	23.0	1	27.4	1	11.0	1	14.8	1	8.0	5	1
2	(6869) シスメックス	80.1	22.4	2	26.5	3	10.3	8	12.9	4	8.0	5	2
3	(4507) 塩野義製薬	79.1	21.5	3	26.2	4	10.3	8	12.8	6	8.3	3	9
4	(4523) エーザイ	77.8	20.8	5	24.7	8	10.6	4	14.6	2	7.1	9	3
5	(4506) 大日本住友製薬	77.6	20.9	4	26.8	2	10.3	8	12.2	8	7.4	8	4
6	(4578) 大塚ホールディングス	75.8	19.4	9	25.3	6	10.5	6	12.2	8	8.4	2	6
7	(4151) 協和発酵キリン	75.5	19.7	8	25.5	5	10.6	4	12.2	8	7.5	7	5
7	(4519) 中外製薬	75.5	18.9	11	24.7	8	11.0	1	12.0	12	8.9	1	8
7	(4543) テルモ	75.5	20.0	7	24.6	11	10.3	8	12.3	7	8.3	3	11
10	(4540) ツムラ	74.0	20.4	6	24.3	12	9.4	14	13.1	3	6.8	13	10
11	(4536) 参天製薬	73.9	19.3	10	25.3	6	9.5	13	12.9	4	6.9	12	14
12	(4568) 第一三共	71.8	18.0	12	24.7	8	10.4	7	11.7	13	7.0	11	13
13	(4502) 武田薬品工業	67.5	16.3	14	22.1	17	9.8	12	12.2	8	7.1	9	7
14	(4508) 田辺三菱製薬	67.2	15.6	17	23.5	15	10.7	3	11.0	14	6.4	14	11
15	(4528) 小野薬品工業	65.0	17.6	13	24.0	13	9.3	15	9.0	17	5.1	15	未実施
16	(4581) 大正製薬ホールディングス	64.0	16.2	15	23.8	14	9.3	15	9.7	15	5.0	16	15
17	(4530) 久光製薬	61.0	15.7	16	22.4	16	8.4	17	9.7	15	4.8	17	16
	評価対象企業評価平均点	73.2	19.2		24.7		10.1		12.1		7.1		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度と同じ6.3点であった。

25年度評価項目および配点(医薬品)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (26点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
② 社長あるいは経営幹部が説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等)	5
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (33点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2) 説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できますか。	5
② 説明会資料等において投資家が求める情報(M&A、為替変動、会計処理方法の変更等による業績変動等)が、十分に開示されていますか。	8
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報(四半期報告書を含む)が十分に開示されていますか。	4
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催し、内容は有益でしたか。 [開催なし:0点]	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、新薬開発・審査状況、新技術、合併・提携等)の開示が、遅滞なく十分に、かつ公平に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等)を行っていますか。	2
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (18点)
(1) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分に説明されていますか。	6
(2) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(3) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (11点)
① 会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。 [過去1年間を目安に評価]	7
② アニュアルレポート、ファクトブック、環境報告書、知的財産報告書や統計補足資料などの内容は充実していますか。	4

医薬品専門部会委員

部会長	田中 洋	みずほ証券
部会長代理	中沢 安弘	SMBC日興証券
	稲垣 善之	野村アセットマネジメント
	久保山 浩之	みずほ信託銀行
	酒井 文義	クレディ・スイス証券
	水野 要	東京海上アセットマネジメント投信
	山口 秀丸	シティグループ証券

評価実施アナリスト（35名）

赤羽 高	東海東京調査センター	高橋 豊	極東証券経済研究所
池野 智彦	エース経済研究所	田中 洋	みずほ証券
石橋 剛	三井住友アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
稲垣 善之	野村アセットマネジメント	長崎 真介	みずほ投信投資顧問
岩朝 亮忠	大和証券	中沢 安弘	SMBC日興証券
上野 由貴	大和証券投資信託委託	日比野 敏之	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
小野塚 昌之	JPモルガン証券	兵庫 真一郎	三菱UFJ信託銀行
梶 昌隆	DIAMアセットマネジメント	広住 勝朗	大和証券
久保山 浩之	みずほ信託銀行	藤田 潤	大和住銀投信投資顧問
熊谷 直美	ジェフリーズ証券	藤原 重良	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
高口 伸一	三井住友信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
酒井 文義	クレディ・スイス証券	水野 要	東京海上アセットマネジメント投信
澤田 信明	JPモルガン・アセット・マネジメント	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー MUFJ証券
嶋津 正明	農林中金全共連アセットマネジメント	山口 秀丸	シティグループ証券
梶崎 晴子	みずほ証券	横山 瑞穂	アムンティ・ジャパン
瀬川 義明	三井住友信託銀行	渡辺 英克	みずほ証券
関 篤史	バークレイズ証券	渡辺 律夫	メリリッチ日本証券
是津 貴之	朝日ライフアセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

石油・鉱業

国際石油開発帝石、石油資源開発、昭和シェル石油、コスモ石油、東燃ゼネラル石油、出光興産、
JXホールディングス (計7社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	7	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	16
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	11
計		22	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 37 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 19 社の 19 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 36 頁参照）。

本年度は、具体的評価項目について説明会等の分野で 1 項目を新たな内容の項目に入替え、自主的情報開示の分野で 1 項目を新設すると共に一部の項目の配点を変更して評価を実施した。このため、昨年度とは同列には比較できないが、評価対象企業 7 社中 6 社の総合評価点が昨年度を上回り、本年度の総合評価平均点は 71.5 点と昨年度（66.4 点）から大きく上昇した。ちなみに、総合評価点の標準偏差は 5.0 点（昨年度 5.9 点）となった。また、業態別の平均点は、石油 5 社が 71.2 点（昨年度 64.7 点）、鉱業 2 社が 72.0 点（同 71.3 点）となり、石油 5 社が大きく上昇したことから双方の格差は 0.8 点（昨年度 6.6 点）となり、ほぼ同水準となった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 66%）、説明会等が 71%（同 66%）、フェア・ディスクロージャーが 81%（同 73%）、コーポレート・ガバナンス関連が 64%（同 56%）、自主的情報開示が 63%（同 69%）となり、自主的情報開示を除く 4 分野はいずれも昨年度を上回った。

具体的評価項目について見ると、22 の評価項目のうち次の 4 項目が平均得点率で 80%以上となり、いずれも昨年度に比べ満点あるいは 80%台以上の高い得点率（評価点／配点（以下省略））の企業が増加した。

- ① 会社主催の説明会（スモールミーティングを除き、電話会議を含む）に社長または会長が年 2 回以上出席（平均得点率 90%、〔満点：6 社《昨年度 5 社》〕）
- ② ホーム・ページで有用な情報（決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）を遅滞なく提供（同 85%、〔全社 80%台《昨年度 3 社》〕）
- ③ 英文による情報提供の充実（同 83%、〔90%：1 社、80%台：5 社《昨年度 80%台 2 社》〕）
- ④ 決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料が決算の理解に有益（同 80%、〔80%台：5 社《昨年度 2 社》〕）

一方、自主的情報開示の分野における次の新設項目は、1 社を除いて低水準の得点率にとどまっており、今後の改善が望まれる。

- ・ 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会又は見学会およびホーム・ページや説明資料等の充実（平均得点率 50% [得点率 50%台以下：6 社 [1 社 73%]]）

(2) 上位個別企業の評価概要

J Xホールディングス（ディスクロージャー優良企業【3 回目】総合評価点：78.2 点、第 1 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）78%）が第 2 位、**説明会等**（81%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**（81%）が第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（69%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（75%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**の項目においては、IR 担当者とは業界全体の見方も含めて有益なディスカッションができること等、同部門の機能が高い評価を受けた。また、経営分析を行う上で、重要な情報の開示の継続性に配慮している点等、IR の基本スタンスも評価された。なお、経営トップとの有意義なディスカッションが深まればより高い評価につながるとのアナリストの声があった。

説明会等においては、説明会資料等に、主要諸元の感応度など関心度の高い数値を適切に記載していることが高い評価を受けた。また、収益および財務分析に必要な情報を投資家の関心に即して記載している点のほか、見通しの分析に必要な情報を記載していることについても高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況を説明していることが評価を受けた。

自主的情報開示においては、E-mail や RSS を利用して有用な情報提供を行っていることが高い評価となったほか、内外の同業他社との比較が可能な情報を開示している点も評価された。さらに、対象企業の平均得点率が最も低水準（50%）であった、事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会や見学会等の充実性について、定期的に事業説明会や工場見学会を開催し内容が充実していたことで、他社と格差のあるトップの評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

コスモ石油（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3 回連続第 2 位】、総合評価点：77.3 点）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）が第 1 位、**説明会等**（77%）が第 3 位、**フェア・ディスクロージャー**（83%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（69%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（65%）が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会以外に社長との有益なミーティングを複数回にわたって設定する等、全体として経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門の情報集積度が高く、計数の把握や背景等の説明が丁寧であり、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実していることも高く評価された。さらに、経営分析を行う上で、重要な情報の開示の継続性に配慮している点等、IR の基本スタンスについても高い評価となった。

説明会等においては、説明会資料等に、収益および財務分析に必要な情報を投資家の関心に即して記載していることや、見通しの分析に必要な情報を記載している点が評価を受けた。また、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような説明をしていることについても評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。また、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況を説明していることが、さらに、**自主的情報開示**においては、ファクトブック、アニュアルレポート等の内容が充実している点が評価された。

以上の結果、同社は 3 回連続して上位の評価を受けた。同社がこのような高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

石油資源開発（総合評価点：71.4 点、第 3 位←4 位、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）第 3 位、**説明会等**（77%）第 2 位）

同社は、説明会等において、社長が今後の目指す方向性について明確に伝わる説明をし、有意義なディスカッ

ションをしていることが評価を受けたほか、経営分析を行う上で、重要な情報の開示の継続性に配慮している点も高く評価された。また、説明会資料等に、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が適切に記載されていることが高い評価となったほか、見通しの分析に必要な情報を記載している点も評価された。さらに、フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢についても評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

以上のほか、**国際石油開発帝石**は、ファクトブック、アニュアルレポート等の内容が充実していることで、他社と格差のある高い得点率の、トップ評価を受けた。

また、**東燃ゼネラル石油**は、今後の株主還元策を客観的に説明していることについて、さらに**昭和シェル石油**は、説明会等において、経営トップが今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていることについて、共に単独で第1位の評価となった。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (石油・鉱業)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュウ、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目7 (配点33点)	評価項目6 (配点30点)	評価項目3 (配点16点)	評価項目2 (配点10点)	評価項目4 (配点11点)	評価点	順位	評価点	順位		
1	(5020) JXホールディングス	78.2	25.9	24.2	12.9	6.9	8.3	1	1	3			
2	(5007) コスモ石油	77.3	27.0	23.0	13.3	6.9	7.1	1	3	2			
3	(1662) 石油資源開発	71.4	24.3	23.1	12.6	5.7	5.7	7	7	4			
4	(1605) 国際石油開発帝石	71.3	23.9	20.4	13.2	6.1	7.7	5	2	1			
5	(5012) 東燃ゼネラル石油	69.1	24.0	18.8	13.0	6.8	6.5	3	5	6			
6	(5019) 出光興産	67.8	19.2	22.6	12.8	6.5	6.7	4	4	5			
7	(5002) 昭和シェル石油	64.3	23.7	16.3	12.3	5.9	6.1	6	6	7			
	評価対象企業評価平均点	71.5	24.0	21.3	12.9	6.4	6.9						

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.0点、昨年度は5.9点であった。

25年度評価項目および配点(石油・鉱業)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (33点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 会社主催の説明会(スモールミーティングを除き、電話会議を含む)に社長または会長が年2回以上出席していますか。 [2回以上:6点 1回:2点 なし:0点]	6
② 説明会等において、社長または会長は今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	5
③ 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。(IR部門への権限移譲、決算説明会以外の有益なミーティングの場の設定等)	5
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。	5
② IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
② 経営分析を行う上で、必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明資料等における開示	
① 決算短信および添付資料(TDネット掲載ベース)	
・ 主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは添付資料に適切に記載されていますか。	4
② 決算説明資料	
・ 決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料は決算の理解に有益ですか。	4
③ 説明会資料等における実績の開示	
・ 収益および財務分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等)は、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	4
④ 説明会資料等における見通しの開示	
A 見通しの分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等)が分かりやすく、かつ十分に記載されていますか。	4
B 次期の利益予想の論拠が明確に示されていますか。	6
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (16点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	8
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供(決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等)が遅滞なく行われていますか。	4
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 今後の資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (11点)
① 内外の同業他社との比較が可能な情報開示(埋蔵資源量、生産・販売量、在庫影響等)がなされていますか。	4
② 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会およびホーム・ページや説明資料等が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	3
③ ファクトブック、アニュアルレポート等の内容は充実していますか。	2
④ E-mailやRSSを利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

石油・鉱業専門部会委員

部会長	塩田 英俊	SMBC日興証券
部会長代理	ラリータ グブタ	モルガン・スタンレー MUFG証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	荻野 零児	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	松本 繁季	野村証券
	宮崎 高志	シティグループ証券
	八木 啓行	富国生命投資顧問

評価実施アナリスト（19名）

大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	花城 輝樹	りそな銀行
荻野 零児	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	濱口 実	みずほ信託銀行
ラリータ グブタ	モルガン・スタンレー MUFG証券	平野 太郎	アライアンス・バーンスタイン
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	松本 繁季	野村証券
塩田 英俊	SMBC日興証券	宮崎 高志	シティグループ証券
新家 法昌	みずほ証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
高橋 輝晃	MU投資顧問	森 貴宏	メリル Lynch日本証券
徳永 祐美	ニッセイアセットマネジメント	八木 啓行	富国生命投資顧問
中 英明	三井住友信託銀行	山崎 慎一	岡三証券
夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント投信		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼ホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ (計 14 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、**新日鐵住金**（昨年経営統合）および**丸一鋼管**を加え、計 14 社（2 社減・2 社新規）のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	37
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	12
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	3	12
計		19	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 43 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 24 社の 27 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 42 頁参照）。

本年度は、昨年度の評価において平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））が高水準であった項目のうち、2 項目を削除したほか、併せて全体の配点も一部変更して評価を実施した。評価対象企業が一部変更になったため同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.3 点（ちなみに昨年度は 74.9 点）であった。総合評価点の標準偏差は 6.2 点（昨年度 5.7 点）となった。

業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（7 社）は 72.1 点、非鉄金属（7 社）は 74.1 点となり、本年度も非鉄金属が鉄鋼を上回ったが、ちなみにその格差は昨年度と変化はなかった。

評価項目の 5 分野についての平均得点率を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%、**説明会等**が 74%、**フェア・ディスクロージャー**が 84%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 73%、**自主的信息開示**が 57%で、**自主的信息開示**の分野が他の分野に比べて低水準の評価となり、この傾向も例年と変化はない。

具体的評価項目について見ると、19 項目中 6 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 3 項目は、1 社を除き満点あるいは全社 80%を上回る高い得点率（評価点/配点（以下省略））の評価となった。

- ① 四半期ごとの業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスの開催（平均得点率 95%、1 社を除き満点、昨年度は全社）
- ② ホーム・ページを利用した有用な情報提供（同 90%、〔得点率 90%台：8 社、80%台：6 社〕）
- ③ 投資家にとって重要と判断される事項の遅滞のない開示（同 86%、〔同 80%台：全社〕）

一方、経営陣が、アナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスに出席し、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージ発信しているかに関し、平均得点率が下がる（▲3 ポイント）など、

アナリストが重要視している経営陣の IR 姿勢について改善が求められる。

また、平均得点率が低水準（51%）である、工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実しているかについては、引き続き改善が強く望まれる。（得点率 50%以下：6 社〔鉄鋼 3 社、非鉄金属 3 社〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

住友金属鉱山（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点：86.5 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉89%）が 2 社同得点第 1 位、**説明会等**（90%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**（89%）が 2 社同得点第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（88%）が第 1 位、**自主的情報開示**（68%）が 2 社同得点第 4 位であった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を理解し、IR 部門への十分な人員配置および同部門への権限委譲が進んでいる点に加え、社長が半期ごとに説明会に出席し、自ら明確な戦略とメッセージを発信していること等が高い評価を受けた。また、IR 部門の情報開示が徹底している点や質疑に対する回答が充実していることのほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしている点等、IR の基本スタンスについても、高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明が分かりやすいこと等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。また、収益および財務分析に必要な情報や投資家の関心に即した部門別および主要関連会社等の実績および見通しのデータの記載が十分であること等、決算説明資料が充実している点が高く評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、公表した経営方針の進捗状況を十分に説明していることや、資本政策、株主還元策の説明が高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、アニュアルレポート、環境報告書および CSR 報告書の内容が充実していることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

DOWA ホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業〔3 回連続第 2 位〕、総合評価点：83.3 点）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（89%）が 2 社同得点第 1 位、**説明会等**（85%）が第 2 位、**フェア・ディスクロージャー**（89%）が 2 社同得点第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）が第 3 位、**自主的情報開示**（68%）が 2 社同得点第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップとの意見交換が容易である点や決算説明会での明確なビジョンの開示に加え、IR イベントに対し前向きであること等が高い評価を受けた。また、IR 部門の情報収集が積極的で十分な情報が蓄積されており、質疑に対する回答も十分である等、同部門の機能が充実している点に加え、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IR の基本スタンスについても、極めて高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明が十分であることに加え、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っている点等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価され、また、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、公表した経営方針の進捗状況を十分に説明していることが高い評価を受けた。

以上の結果、同社は 3 回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

丸一鋼管（総合評価点：77.7 点、第 3 位〔新規〕）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（86%）が第 3 位、**説明会等**（73%）が第 7 位、**フェア・ディスクロージャー**（79%）が第 14 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（85%）が第 2 位、**自主的情報開示**（65%）が第 6 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣の情報開示姿勢が明確であり、社長が説明会等に出席し投資家に向けて経営方針等についての有意義なメッセージを発信している点等が高い評価を受けた。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、IR の基本スタンスについて極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、株主還元策等の重要な方針が十分説明されている点や、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その進捗状況・達成のための具体的な方策を十分に説明していることが高い評価を受けた。

以上のほか、説明会、インタビューにおける開示や投資家の関心に即した主要関連会社等の実績および見通しのデータの記載が十分であることについて高い評価を受けた。加えて、経営陣が工場見学会の開催に前向きであり内容が充実していたことも評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三菱マテリアル

（総合評価点：76.8 点、第 4 位←6 位、分野別では、説明会等（81%）第 3 位、フェア－ディスクロージャー（85%）2 社同得点第 5 位、自主的情報開示（70%）第 3 位）

同社は、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っている点が評価された。また、説明資料についてさらに分かりやすく充実するよう努力している点が評価されたほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していることも高く評価された。

フェア－ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。さらに、筑波製作所や、ユニバーサル製缶工場見学会のほかセメント事業説明会等の内容が充実していたことも評価された。

ジェイ エフ イー ホールディングス

（総合評価点：74.5 点、第 5 位←7 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（76%）第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連（75%）2 社同得点第 4 位、自主的情報開示（80%）第 1 位）

全体の項目中で、平均得点率が 2 番目に低水準（51%）であった、工場見学、事業部説明会等の実施に関し、同社は、東日本製鉄所見学会の企画が、大人数を対象としながらも内容が工夫され充実していたことが、各社と格差のある高い得点率のトップの評価となった。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしている点等、IR の基本スタンスについても高い評価を受けたほか、株主還元策について十分に説明していることも評価された。

以 上

平成25年度 ティスクロージャー 評価比較総括表 (鉄鋼・非鉄金属)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点 29点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目7 (配点 37点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目3 (配点 10点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目2 (配点 12点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目3 (配点 12点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(5713) 住友金属鉱山	86.5	25.7	1	33.2	1	8.9	1	10.5	1	8.2	4	1
2	(5714) DOWAホールディングス	83.3	25.7	1	31.3	2	8.9	1	9.2	3	8.2	4	2
3	(5463) 丸一鋼管	77.7	24.9	3	26.9	7	7.9	14	10.2	2	7.8	6	未実施
4	(5711) 三菱マテリアル	76.8	21.8	7	29.9	3	8.5	5	8.2	11	8.4	3	6
5	(5411) ジェイエフイーホールディングス	74.5	22.1	5	25.7	11	8.1	10	9.0	4	9.6	1	7
6	(5471) 大同特殊鋼	73.8	21.4	8	27.8	5	8.4	7	8.7	7	7.5	7	4
7	(5486) 日立金属	72.1	22.6	4	27.9	4	8.5	5	8.4	9	4.7	11	3
8	(5801) 古河電気工業	70.7	21.9	6	26.8	8	8.6	3	8.4	9	5.0	10	8
9	(5802) 住友電気工業	69.9	21.2	9	27.1	6	8.6	3	8.8	6	4.2	14	14
10	(5413) 日新製鋼ホールディングス	69.8	21.0	10	26.4	10	8.1	10	8.6	8	5.7	9	12
11	(5401) 新日鐵住金	69.4	19.5	12	23.3	14	8.3	8	9.0	4	9.3	2	未実施
12	(5406) 神戸製鋼所	67.4	19.6	11	26.8	8	8.1	10	8.2	11	4.7	11	11
13	(5706) 三井金属鉱業	65.6	18.1	14	24.7	13	8.2	9	7.1	14	7.5	7	10
13	(5803) フジクラ	65.6	19.1	13	25.7	11	8.1	10	8.1	13	4.6	13	13
	評価対象企業評価平均点	73.3	21.8		27.5		8.4		8.8		6.8		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.2点、昨年度は5.7点であった。

25年度評価項目および配点(鉄鋼・非鉄金属)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (29点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	10
② 経営陣がアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスに出席し、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。(経営陣は必ずしも社長に限定しない)	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (37点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
② インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
(2) 説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料(詳細なファクトブックを含む)が、TDネット経由またはホーム・ページで入手できますか。	5
② 説明会資料等における実績および見通しの開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	6
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	6
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	5
② 四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。 [開催あり:2点 開催なし:0点]	2
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示は、遅滞なく行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等)を行っていますか。	4
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能であり、有用な情報提供となっていますか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (12点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期の経営計画(目標とする経営指標等)またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	7
② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	2
③ E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部会長	山口 敦	UBS証券
部会長代理	小枝 善則	アムンデ・イ・ジ・ジャパン
	小野 まな実	岡三証券
	五老 晴信	モルガン・スタンレー MUFG証券
	竹元 宏和	みずほ信託銀行
	原田 一裕	SMBC日興証券
	松本 裕司	野村證券

評価実施アナリスト(27名)

荒木 廉太郎	三井住友信託銀行	高野 芳行	東海東京調査センター
石井 宏	国際投信投資顧問	竹内 克弥	UBS証券
石賀 健	アライアンス・パートナーズ	竹元 宏和	みずほ信託銀行
石飛 益徳	エース経済研究所	徳永 祐美	ニッセイアセットマネジメント
入沢 健	立花証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
榎本 尚志	リクルート日本証券	中 英明	三井住友信託銀行
小野 まな実	岡三証券	原田 一裕	SMBC日興証券
椋島 裕介	大和証券投資信託委託	松田 洋	みずほ証券
黒坂 慶樹	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	松橋 郁夫	ゴールドマン・サックス証券
小枝 善則	アムンデ・イ・ジ・ジャパン	松本 裕司	野村證券
五老 晴信	モルガン・スタンレー MUFG証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
城野 俊之	BNPパリバ証券	山口 敦	UBS証券
鈴木 博行	みずほ証券	山田 真也	クレディ・スイス証券
添谷 昌生	りそな銀行		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気・精密機器

【産業・民生エレクトロニクス部門】	日立製作所、東芝、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、パナソニック、シャープ、ソニー
【電子部品部門】	日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工
【精密機器部門】	富士フイルムホールディングス、コニカミノルタ、セイコーエプソン、ニコン、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン
(計 23 社・コード順)	

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	38
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	8
計		17	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 53 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 34 社の 58 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」（部門別を含む）は 49～52 頁参照）。

本年度は、**自主的な情報開示**に関する具体的評価項目の内容を一部修正して評価を実施した。本年度は、昨年度の総合評価点を上回った企業が 9 社、下回った企業が 13 社となったが、本年度の電気・精密機器全体（以下〈全体〉と省略）の総合評価平均点は 72.0 点となり、昨年度（72.7 点）とほぼ同水準であった。ちなみに、総合評価点の標準偏差を見ると、昨年度に比べ総合評価点の上位 80% 台の企業が 5 社から 2 社に減少したこと等から、昨年度の 7.2 点から 5.9 点へと縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 73%（昨年度 75%）、**説明会等**が 75%（同 74%）、**フェア・ディスクロージャー**が 78%（同 78%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 71%（同 68%）、**自主的な情報開示**が 49%（同 53%）となり、平成 21 年度をボトム（32%）に改善傾向にあった**自主的な情報開示**は昨年度を下回り、他の分野との格差が拡大した。

また、評価対象企業を 3 部門に分けて評価結果を比較してみると、評価平均点の高い順に、精密機器（8 社）が 72.9 点（昨年度 75.4 点）、産業・民生エレクトロニクス（9 社）が 72.1 点（同 72.5 点）、電子部品（6 社）が 71.6 点（同 70.1 点）となり、精密機器が昨年度を下回り、電子部品が上回ったことから部門間格差は縮小した。

具体的評価項目について見ると、17 の評価項目中 2 項目が平均得点率で 90%（他は 70% 台以下）となり、①は満点を含む全社で、②は 2 社を除き高い水準の得点率（評価点／配点〈以下省略〉）となった。

- ① 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値を適切に記載（満点：10 社、得点率 80% 台：13 社）
- ② IR の専門部署があり取材が容易（同 90% 台：18 社、80% 台：3 社）

一方、次の項目については、一部の企業を除き今後の改善が強く望まれる。

- ・ 工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会を実施し内容が有益（平均得点率 49%《評価項目中最低》、〔得点率 50%以下：13 社（上位 5 社 70%台）〕）

(2) 全体の上位個別企業の評価概要

オムロン（ディスクロージャー優良企業【2 回目】、総合評価点：81.6 点、第 1 位←5 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉85%）および**説明会等**（83%）が第 2 位、**フェア・ディスクロージャー**（84%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（81%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（56%）が第 9 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が会社主催の説明会に出席し、投資家のニーズに応じて経営方針を丁寧に説明していること等、**経営陣の IR 姿勢**が高い評価を受けた。また、**IR 部門**に十分な情報が集積され、担当者と事業別・地域別等詳細なデータに基づく有益なディスカッションができる点等、同部門の機能についても高く評価された。加えて、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮していることが極めて高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高く評価された。また、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しておりかつ簡潔に要約されていることや、主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されている点等、説明資料等の継続的かつ適切な開示が極めて高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホームページでの有用な情報提供（質疑応答を含めた決算説明会の状況の配信等）が高く評価された。また、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、中長期の経営計画を公表し、売上総利益率の数値目標と実現のための施策を十分に説明している点が高い評価を受けたほか、資本政策、株主還元策の説明も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日本電産（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3 回連続第 2 位】、総合評価点：80.6 点、電子部品部門：第 1 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（88%）および**説明会等**（85%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**（81%）が 3 社同得点第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（81%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（29%）が第 21 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が四半期ごとの決算説明会で目標とする具体的な数値、達成のための手法、乖離した場合の要因等を明確に説明していること等、**経営陣の IR 姿勢**が極めて高い評価を受けた。また、**IR 担当者**が足元の市場動向および自社業績と今後についての分析が深く、有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実している点も高く評価された。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高い評価を受けた。また、決算説明会のプレゼンテーション資料が充実しておりかつ簡潔に要約されている点が評価されたほか、主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率をもって、十分に説明されている点等、インタビュー等での開示が高く評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢が高い評価を受け、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期計画が具体的でそこに至る過程も明確であることが高く評価された。

以上の結果、同社は、電気・精密機器全体で長年にわたり上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものである。また、同社は、電子部品部門においては本年度も第 1 位の評価を受け、同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

ニコン（総合評価点：79.9点、第3位←1位、精密機器部門：第1位←1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（81%）が第3位、**説明会等**（81%）が第4位、**フェア・ディスクロージャー**（80%）が4社同得点第7位、**コーポレート・ガバナンス関連**（76%）および**自主的情報開示**（71%）が第4位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が、会社主催の説明会において、経営方針・中期経営計画等明確なビジョンを説明し、年度ごとに実態に即して追加、修正していること等、経営陣のIR姿勢が高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しておりかつ簡潔に要約されていること等、説明資料等の開示が高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗度評価をきちんと実施し、達成のための具体的方策を説明していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、精機事業および映像事業の説明会を実施し、その内容が有益であったことが相対的に高く評価された。

以上の結果同社は、精密機器部門において、昨年度に引続き第1位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

日立製作所（総合評価点：77.4点、第4位←4位、産業・民生エレクトロニクス部門第2位←1位、分野別では、フェア・ディスクロージャー（83%）第2位、コーポレート・ガバナンス関連（80%）第3位、自主的情報開示（79%）第1位）

同社は、**フェア・ディスクロージャー**に関して、その取組姿勢が高い評価を受け、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、中長期の経営方針、資本政策に対する経営トップの方針が十分に伝わり信頼感があることが極めて高く評価された。また、**自主的情報開示**においては、毎年開催される日立IR Dayや研究開発説明会、電力事業工場見学会を実施し、その内容が有益であったことがトップの評価につながった。

以上のほか、社長が、会社主催の説明会において経営戦略に関し説得力のあるプレゼンテーションを行っていることや、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮している点が高く評価された。また、説明資料等に主要セグメントの売上高および営業利益が記載されていることも高い評価となった。

富士フイルムホールディングス（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：76.7点〔昨年度比+8.1点〕、全体第5位←18位、精密機器部門：第2位←7位、分野別では、フェア・ディスクロージャー（82%）第3位、自主的情報開示（74%）第2位）

同社は、全社の中で唯一、5分野すべての得点率が昨年度を上回り、具体的評価項目でも17項目中14項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の最大アップにつながった。特に、**自主的情報開示**においては、**メディカル事業**、**ヘルスケア事業**、**ドキュメント事業**の説明会を実施し、その内容が有益であったことで当該項目の得点率が大幅に改善（+33ポイント）した。また、社長が会社主催の説明会に毎四半期出席する改善（+50ポイント）も見られた。加えて、**フェア・ディスクロージャー**に関しては、その取組姿勢や、ホームページでの有用な情報提供が高く評価された。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

(3) 部門別（平均評価点上位順）の上位個別企業の評価概要

【精密機器部門、平均評価点：72.9点】

ニコン（総合評価点：79.9点、当部門：第1位←1位、全体：第3位←1位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

【産業・民生エレクトロニクス部門、同：72.1点】

オムロン（総合評価点：81.6点、当部門：第1位←2位、全体：第1位←5位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

【電子部品部門、同：71.6点】

日本電産（総合評価点：80.6点、当部門：第1位←1位、全体：第2位←2社同得点2位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目5 (配点34点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目7 (配点38点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目2 (配点10点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点8点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6645) オムロン	81.6	29.0	2	31.6	2	8.4	1	8.1	1	4.5	9	5
2	(6594) 日本電産	80.6	29.9	1	32.2	1	8.1	4	8.1	1	2.3	21	2
3	(7731) ニコン	79.9	27.7	3	30.9	4	8.0	7	7.6	4	5.7	4	1
4	(6501) 日立製作所	77.4	25.2	12	29.6	7	8.3	2	8.0	3	6.3	1	4
5	(4901) 富士フイルムホールディングス	76.7	26.4	8	29.1	12	8.2	3	7.1	12	5.9	2	18
6	(6724) セイコーエプソン	76.1	27.5	5	29.8	6	7.7	14	7.4	7	3.7	13	6
7	(6702) 富士通	75.5	26.9	7	29.2	10	8.0	7	6.8	16	4.6	8	10
7	(8035) 東京エレクトロン	75.5	27.5	5	29.3	9	7.6	19	6.3	20	4.8	6	2
9	(6701) 日本電気	75.4	26.1	11	29.5	8	8.1	4	6.9	13	4.8	6	11
10	(6762) TDK	75.3	27.6	4	30.3	5	8.0	7	6.7	19	2.7	16	9
11	(6981) 村田製作所	73.9	23.7	15	31.3	3	7.9	11	7.3	8	3.7	13	12
12	(4902) コニカミノルタ	73.3	26.3	10	29.2	10	8.0	7	7.3	8	2.5	17	8
13	(7741) HOYA	71.9	26.4	8	27.4	16	8.1	4	5.9	22	4.1	10	19
14	(6502) 東芝	71.4	23.6	17	29.0	13	7.7	14	7.3	8	3.8	12	7
15	(6752) パナソニック	71.3	24.3	14	26.2	20	7.7	14	7.5	5	5.6	5	13
16	(6971) 京セラ	70.6	25.2	12	29.0	13	7.5	21	6.8	16	2.1	22	17
17	(7752) リコー	67.3	22.0	18	27.5	15	7.8	12	7.5	5	2.5	17	15
18	(6753) シャープ	66.9	23.7	15	27.2	19	7.3	22	6.2	21	2.5	17	20
19	(6988) 日東電工	66.1	20.8	21	27.4	16	7.8	12	6.9	13	3.2	15	21
20	(6503) 三菱電機	65.3	21.0	20	26.1	21	7.3	22	6.9	13	4.0	11	13
21	(6758) ソニー	63.7	18.9	22	24.6	22	7.6	19	6.8	16	5.8	3	24
22	(7751) キヤノン	62.4	17.8	23	27.3	18	7.7	14	7.2	11	2.4	20	16
23	(6963) ローム	61.2	21.2	19	24.4	23	7.7	14	5.9	22	2.0	23	25
	評価対象企業評価平均点	72.0	24.7		28.5		7.8		7.1		3.9		

(注1) 総合評価点と同順位の場、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.9点、昨年度は7.2点であった。

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目5 (配点34点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7 (配点38点)		3. フェア・ディジャーロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2 (配点10点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点8点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6645) オムロン	81.6	29.0	1	31.6	1	8.4	1	8.1	1	4.5	6	2
2	(6501) 日立製作所	77.4	25.2	4	29.6	2	8.3	2	8.0	2	6.3	1	1
3	(6702) 富士通	75.5	26.9	2	29.2	4	8.0	4	6.8	7	4.6	5	4
4	(6701) 日本電気	75.4	26.1	3	29.5	3	8.1	3	6.9	5	4.8	4	5
5	(6502) 東芝	71.4	23.6	7	29.0	5	7.7	5	7.3	4	3.8	8	3
6	(6752) パナソニック	71.3	24.3	5	26.2	7	7.7	5	7.5	3	5.6	3	6
7	(6753) シャープ	66.9	23.7	6	27.2	6	7.3	8	6.2	9	2.5	9	8
8	(6503) 三菱電機	65.3	21.0	8	26.1	8	7.3	8	6.9	5	4.0	7	6
9	(6758) ソニー	63.7	18.9	9	24.6	9	7.6	7	6.8	7	5.8	2	10
	評価対象企業評価平均点	72.1	24.3		28.1		7.8		7.2		4.7		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.0点、昨年度は7.2点であった。

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電子部品部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目5 (配点34点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7 (配点38点)		3. フェア・ディーロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目2 (配点10点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点8点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6594) 日本電産	80.6	29.9	1	32.2	1	8.1	1	8.1	1	2.3	4	1
2	(6762) TDK	75.3	27.6	2	30.3	3	8.0	2	6.7	5	2.7	3	2
3	(6981) 村田製作所	73.9	23.7	4	31.3	2	7.9	3	7.3	2	3.7	1	3
4	(6971) 京セラ	70.6	25.2	3	29.0	4	7.5	6	6.8	4	2.1	5	4
5	(6988) 日東電工	66.1	20.8	6	27.4	5	7.8	4	6.9	3	3.2	2	5
6	(6963) ローム	61.2	21.2	5	24.4	6	7.7	5	5.9	6	2.0	6	7
	評価対象企業評価平均点	71.6	24.8		29.2		7.9		7.0		2.7		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.9点、昨年度は8.1点であった。

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (精密機器部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会・インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(7731) ニコン	79.9	27.7	1	30.9	1	8.0	3	7.6	1	5.7	2	1
2	(4901) 富士フイルムホールディングス	76.7	26.4	4	29.1	5	8.2	1	7.1	6	5.9	1	7
3	(6724) セイコーエフソン	76.1	27.5	2	29.8	2	7.7	6	7.4	3	3.7	5	3
4	(8035) 東京エレクトロン	75.5	27.5	2	29.3	3	7.6	8	6.3	7	4.8	3	2
5	(4902) コニカミノルタ	73.3	26.3	6	29.2	4	8.0	3	7.3	4	2.5	6	4
6	(7741) HOYA	71.9	26.4	4	27.4	7	8.1	2	5.9	8	4.1	4	8
7	(7752) リコー	67.3	22.0	7	27.5	6	7.8	5	7.5	2	2.5	6	5
8	(7751) キヤノン	62.4	17.8	8	27.3	8	7.7	6	7.2	5	2.4	8	6
	評価対象企業評価平均点	72.9	25.3		28.7		7.9		7.0		4.0		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.6点、昨年度は6.3点であった。

25年度評価項目および配点(電気・精密機器)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (34点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 社長または会長が会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)に年何回出席していますか。 (前年7月から本年6月までの間) [2回以上:4点 その他:0点]	4
② 社長または会長が、会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)において、経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IRの専門部署があり取材が容易にできますか。	5
② IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (38点)
(1) 説明会における開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明会資料等における開示	
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料は、充実しておりかつ簡潔に要約されていますか。	6
② 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値(設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績)が、適切に記載されていますか。 [1項目1点]	6
③ 主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。	6
(3) インタビュー等における開示	
① 主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
② サブセグメントの売上高および営業利益が、四半期ベースで開示されていますか。	5
③ 次の四半期についての業績の方向性を説明していますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで財務データ等有用な情報を活用しやすい形式で提供していますか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
・ 工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。 (前年7月から本年6月までの間)	8

電気・精密機器専門部会委員

部会長	嶋田 幸彦	SMBC日興証券
部会長代理	澤嶋 裕希	三井住友信託銀行
	相場 繁	野村アセットマネジメント
	浦 昌平	アムンティ・シージャパン
	江沢 厚太	シティグループ証券
	桂 竜輔	UBS証券
	佐渡 拓実	大和証券
	和田木 哲哉	野村證券

評価実施アナリスト（58名）

相場 繁	野村アセットマネジメント	嶋田 幸彦	SMBC日興証券
秋田 一太郎	スペース・アセット・マネジメント	嶋津 正明	農林中金全共連アセットマネジメント
秋山 貢一	岡三証券	菅原 繁男	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
五十嵐 貴宏	富国生命投資顧問	高橋 豊	極東証券経済研究所
磯 光裕	野村アセットマネジメント	高山 大樹	ゴールドマン・サックス証券
稲葉 章代	三井住友信託銀行	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
今津 拓洋	みずほ信託銀行	中根 康夫	ドイツ証券
内野 晃彦	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	中名生 正弘	パークレイズ証券
浦 昌平	アムンティ・シージャパン	竝川 伸一	りそな銀行
江沢 厚太	シティグループ証券	西野 慶太	東京海上アセットマネジメント投信
大牧 実慶	立花証券	根来 裕昭	三井住友信託銀行
岡部 和男	富国生命投資顧問	萩原 幸一朗	東海東京調査センター
沖本 修朗	新光投信	引地 真二	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	平井 明子	アムンティ・シージャパン
片山 智宏	三井住友信託銀行	福永 敬輔	三井住友信託銀行
桂 竜輔	UBS証券	福永 幸彦	立花証券
嶋下 健	DIAMアセットマネジメント	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
久保田 一正	岡三証券	松橋 郁夫	ゴールドマン・サックス証券
久保田 悟	三井住友信託銀行	松村 泰武	大和住銀投信投資顧問
小林 正昭	三菱UFJ信託銀行	光田 寛和	大和証券
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
酒井 洋	SMBCフレント調査センター	村上 貴信	岡三証券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	森山 久史	JPモルガン証券
佐藤 春雄	東海東京調査センター	安田 秀樹	エース経済研究所
佐藤 弘康	東京海上アセットマネジメント投信	安山 誠健	富国生命投資顧問
佐渡 拓実	大和証券	山崎 総一	富国生命投資顧問
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	山崎 雅也	野村證券
澤嶋 裕希	三井住友信託銀行	若林 恵太	水戸証券
芝野 正紘	シティグループ証券	和田木 哲哉	野村證券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、ダイハツ工業、本田技研工業、スズキ、富士重工業、ヤマハ発動機、豊田合成（計 20 社・コード順）

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに**横浜ゴム**を加え、計 20 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	12	36
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	6	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	14
計		30	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 59 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 30 社の 35 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 58 頁参照）。

本年度は、評価項目の具体的内容および配点を昨年度と同一で評価を実施した。本年度は各企業の総合評価点が昨年度と比較して上回った企業が社数的には多かった（13 社）が、本年度の総合評価平均点は 64.2 点となり昨年度（62.2 点）と大きな変化はなかった。ちなみに、総合評価点の標準偏差は 10.5 点（昨年度は 11.7 点）となった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 61%（昨年度 61%）、**説明会等**が 70%（同 66%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 67%（同 71%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 60%（同 58%）、**自主的情報開示**が 55%（同 50%）となり、**自主的情報開示**は改善が見られたものの他の分野に比べ依然として低水準である。

具体的評価項目について見ると、30 項目中主として説明資料等の開示および**フェアー・ディスクロージャー**の分野を中心に 11 項目が平均得点率で 80%以上となった。特に次の 3 項目の、①は全社において満点を含む高い得点率（評価点／配点（以下省略））で、②③は多数の企業が満点の評価となった。

- ① ホーム・ページにおける決算説明会の配布資料の十分な掲載（平均得点率 95%、〔満点：5 社、得点率 90% 台：11 社、80%台：4 社〕）
- ② 四半期ごとの業績動向に関する説明会または電話会議の開催（同 90%、〔満点：17 社、0 点 3 社〕）
- ③ 日本語のアンニュアルレポート（大幅な簡易版を除く）の作成（同 90%、〔満点：17 社、0 点 3 社〕）

一方、次の 4 項目は、一部の企業を除く多くの企業で低い得点率の評価にとどまっており、今後総じて改善が望まれる。

- ① 説明会のリプレイは質疑応答の状況が十分に分かる（平均得点率 17%、〔0 点 10 社、得点率 50%未満：8 社〕）

- ② 説明資料において、連結中間期の計画ベースの利益増減要因は実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載（同 35%、〔40%以下：17 社〕）
- ③ 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定（同 45%、〔50%台以下：16 社〕）
- ④ 会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会の内容の充実度（同 45%、〔同 50%台以下：15 社〕）

また、業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、自動車メーカー69.5点（昨年度 67.1点）、タイヤメーカー63.3点（同 66.2点）、同部品メーカー55.1点（同 52.5点）となり、本年度は、同部品メーカーは、昨年度を上回ったものの依然として他の業態と大きな格差があり、引続き今後の改善が強く望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

日産自動車（ディスクロージャー優良企業〔7回連続7回目〕、総合評価点：84.4点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）85%）が第1位、**説明会等**（82%）が第3位、**フェア・ディスクロージャー**（91%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）および**自主的情報開示**（86%）が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を十分認識し、社内の協力体制を構築していること等、その IR 姿勢の評価が極めて高かった。特に、全体的に得点率が低水準となった、経営トップ等が決算説明会以外にミーティングの場を設定し、経営方針等についてディスカッションができるかに関し、相対的に高いトップの評価を受けた。また、IR 担当者が積極的に投資家向けに情報開示を行っていること等、同部門が十分に機能している点についても高く評価された。

説明会等においては、説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示について、項目により評価にばらつきが見られるものの、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような補足説明が充実していること等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価され、特に、平均得点率が最も低水準（17%）である、説明会のリプレイは質疑応答の状況が十分に分かるかについては、他社と大きな格差のある得点率の評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画に関する具体的な方針の開示等が高く評価された。

自主的情報開示においては、全体的に得点率が低水準となった、工場見学会や事業部説明会等の開催に関し、ジャトコ見学会や先進技術説明会等を開催し充実していたことにより高い得点率でトップの評価を受けたほか、E-mail を利用して有用な情報提供を行っている点も極めて高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

富士重工業（総合評価点：80.7点、第2位←2位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（80%）が第2位、**説明会等**（86%）が第1位、**フェア・ディスクロージャー**（81%）が第3位、**コーポレート・ガバナンス関連**（74%）および**自主的情報開示**（76%）が第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が説明会等で明確なメッセージを伝えている等、経営陣の前向きな IR 姿勢が高く評価された。また、経営トップ等が決算説明会以外に積極的に投資家とのコミュニケーションを図っている点が相対的に高い評価を受けた。さらに、IR 部門への情報集積が十分に担当者が積極的に投資家向けに情報開示を行っていることも評価された。加えて、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行う等、IR の基本スタンスについても高い評価となった。

説明会等においては、質疑に対する回答が十分である点等、説明会、インタビューにおける開示について高く評価された。さらに、説明資料において全体的に得点率が低水準となった、連結中間期の計画ベースの利益増減要因が実態を表し分析に有用な形で分かりやすく記載されているかについて、第3位以下と大きい格差のある高い評価となった。

フェア・ディスクロージャーに関しては、この分野の一部の項目を除き、その取組姿勢等が高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、達成のための具体

的方策を説明している点のほか、ガバナンス体制についての十分な説明が高い評価となった。

自主的情報開示においては、統計補足情報やファクトブックの内容が充実していることが極めて高く評価された。

マツダ（総合評価点：74.8点、第3位←6位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（75%）が第3位、説明会等（77%）およびフェア・ディスクロージャー（76%）が第4位、コーポレート・ガバナンス関連（70%）が第3位、自主的情報開示（74%）が第4位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会で分かりやすく対応していることや、イベントを通じて直接対話ができる機会を設ける等、経営陣の積極的なIR姿勢が高い評価となった。また、IR部門における情報集積が十分である点も評価された。

説明会等においては、質疑に対する回答が十分である点等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、この分野の一部の項目を除き、その取組姿勢等が高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、E-mailを利用して有用な情報提供を行っていることが高く評価された。

住友ゴム工業（総合評価点：72.1点、第4位←3位）

同社は、説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示が高く評価された。特に、説明資料において全体的に得点率が低水準となった、連結中間期の計画ベースの利益増減要因が実態を表し分析に有用な形で分かりやすく記載されているかについて、極めて高い得点率のトップの評価を受けた。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点で、唯一満点評価となった。加えて、フェア・ディスクロージャーに関しては、この分野の一部の項目を除き、その取組姿勢等が高い評価を受けた。

デンソー（総合評価点：70.9点、第5位←8位）

同社は、IR部門における情報集積、担当者の積極的な投資家向け情報開示のほか、説明会、インタビューにおける質疑に対する回答が十分である点等が評価された。また、全体的に得点率が低水準となった、工場見学会や事業部説明会等の開催に関し、安全技術説明会等を開催し充実していたことにより相対的に高い評価を受けた。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (自動車・同部品・タイヤ)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4 (配点20点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目12 (配点36点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目6 (配点15点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目4 (配点15点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目4 (配点14点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(7201) 日産自動車	84.4	16.9	1	29.6	3	13.6	1	12.3	1	12.0	1	1
2	(7270) 富士重工業	80.7	15.9	2	30.9	1	12.1	3	11.1	2	10.7	2	2
3	(7261) マツダ	74.8	15.0	3	27.6	4	11.4	4	10.5	3	10.3	4	6
4	(5110) 住友ゴム工業	72.1	13.6	6	30.5	2	11.2	5	9.3	10	7.5	11	3
5	(6902) デンソー	70.9	14.6	4	27.2	5	10.1	14	9.3	10	9.7	5	8
6	(7203) トヨタ自動車	70.3	12.8	9	24.6	12	12.7	2	9.6	8	10.6	3	9
7	(7272) ヤマハ発動機	70.1	13.7	5	26.8	6	10.2	11	10.1	5	9.3	6	3
8	(7202) いすゞ自動車	68.2	13.2	7	26.8	6	9.6	15	10.2	4	8.4	10	5
9	(7267) 本田技研工業	67.7	12.2	11	25.9	8	10.8	8	9.7	7	9.1	7	6
10	(7269) スズキ	64.5	12.8	9	24.8	11	10.6	9	7.7	17	8.6	8	14
11	(7211) 三菱自動車工業	64.2	11.5	13	24.2	15	10.9	7	9.0	12	8.6	8	10
12	(5108) プリヂストン	64.0	13.0	8	25.2	9	10.2	11	9.8	6	5.8	13	13
13	(6201) 豊田自動織機	61.7	11.9	12	24.9	10	11.2	5	8.1	14	5.6	14	12
14	(7262) ダイハツ工業	60.3	10.6	15	24.3	13	10.2	11	7.9	15	7.3	12	10
15	(7205) 日野自動車	56.7	11.0	14	24.3	13	7.5	17	9.6	8	4.3	18	17
16	(7259) アイシン精機	55.3	9.1	19	22.8	16	10.5	10	7.8	16	5.1	16	15
17	(5101) 横浜ゴム	54.2	10.4	16	22.5	17	7.9	16	8.5	13	4.9	17	未実施
18	(7240) NOK	49.4	10.1	17	19.9	19	7.2	19	6.7	19	5.5	15	18
19	(7282) 豊田合成	47.1	9.2	18	20.3	18	6.8	20	6.5	20	4.3	18	19
20	(3116) トヨタ紡織	45.7	7.5	20	19.6	20	7.3	18	7.5	18	3.8	20	16
	評価対象企業評価平均点	64.2	12.2		25.2		10.1		9.0		7.7		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.5点、昨年度は11.7点であった。

25年度評価項目および配点(自動車・同部品・タイヤ)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点 (20点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。(IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限移譲、情報集積への支援等)		4
② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定し、経営方針等について有意義なディスカッションが出来ますか。		4
(2) IR部門の機能		
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報開示の手法等)		8
(3) IRの基本スタンス		
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。		4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示		
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。		8
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。		8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示		
① 連結の事業種類別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
② 連結の地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
③ 連結の実績ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
④ 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
⑤ 連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
⑥ 原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
⑦ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
⑧ 売上を分析するのに有用な情報(注)が十分に記載されていますか。		2
(3) 四半期情報開示		
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 [開催あり:1点 開催なし:0点]		1
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。		3
3. フェア・ディスクロージャー		配点 (15点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。		2
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。		3
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
① ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。		2
② 決算説明会の配布資料の掲載は十分ですか。		2
(3) 説明会のリプレイについて		
① 説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等が出来ますか。 [4回すべて視聴できる:3点 2回のみ視聴できる:2点 1回のみ視聴できる:1点 視聴できない:0点]		3
② 説明会のリプレイは、質疑応答の状況が十分に分かるようになっていますか。		3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (15点)
(1) ガバナンス体制について		
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。		2
(2) 資本政策、株主還元策の開示		
① 資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。		4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。		4
(3) 目標とする経営指標等		
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。		5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (14点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]		8
② E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。		3
③ ファクトブックや統計補足情報等の内容は充実していますか。		2
④ 日本語のアンニュアルレポート(大幅な簡易版を除く)を作成していますか。 [作成あり:1点 なし:0点]		1

(注) 有用な情報については、【業態】毎に、【自動車メーカー】:地域別小売台数、輸出台数、生産台数等
【同部品メーカー】:ユーザー別および製品別売上高等 【タイヤメーカー】:地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等。

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部会長	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
部会長代理	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
	野口 正太郎	SMBC 日興証券
	箱守 英治	大和証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（35名）

秋田 一太郎	スペース・アセット・マネジメント	高橋 耕平	JP モルガン証券
石川 照夫	みずほ信託銀行	角田 成宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
石飛 益徳	エース経済研究所	中西 孝樹	メリリチ日本証券
岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	野口 正太郎	SMBC 日興証券
岩元 泰晶	岡三証券	萩原 学	シティグループ証券
上迫 和也	三井住友信託銀行	箱守 英治	大和証券
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	服部 哲也	大和証券投資信託委託
加藤 摩周	アムンティ・ジャパン	林 智夫	富国生命投資顧問
北浦 岳志	ドイツ証券	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
北山 信次	明治安田アセットマネジメント	星 匠	東洋証券
君島 重晴	大和住銀投信投資顧問	松村 茂	SMBC フロント調査センター
栗生 博	マネライフ・アセット・マネジメント	三浦 勇介	東海東京調査センター
坂口 大陸	みずほ証券	武藤 健郎	朝日ライフアセットマネジメント
坂牧 史郎	大和証券	森山 茂	東京海上アセットマネジメント投信
佐野 陽一郎	りそな銀行	山岡 久紘	野村証券
島岡 宏	三井住友信託銀行	吉田 有史	シティグループ証券
杉浦 誠司	みずほ証券	吉田 達生	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
高田 悟	ティ・アイ・ダウリュ		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運 輸

東京急行電鉄、小田急電鉄、京王電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、日本通運、ヤマトホールディングス、福山通運、日立物流、日本郵船、商船三井、川崎汽船、日本航空、ANA ホールディングス、三菱倉庫、郵船ロジスティクス、近鉄エクスプレス (計 18 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに小田急電鉄と日本航空を加え、計 18 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	36
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	14
計		21	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 65 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 24 社の 25 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 64 頁参照)。

本年度は、昨年度の評価において平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) が高水準であった項目のうち、1 項目を削除しその配点を他の項目に加えたほか、ホームページにおける情報提供のうち 2 項目の具体的内容を一部修正して評価を実施した。対象企業も 2 社追加となったため同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、65.8 点 (ちなみに昨年度は 66.8 点) であった。総合評価点の標準偏差は 13.8 点 (昨年度は 14.2 点) となった。

評価項目の 5 分野について平均得点率を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 66%、説明会等が 67%、フェア・ディスクロージャーが 68%、コーポレート・ガバナンス関連が 66%、自主的な情報開示が 60%と各分野とも 60%台の水準であった。ちなみに、フェア・ディスクロージャーのみが昨年度の水準を上回った。

具体的評価項目について見ると、21 項目のうち、次の 2 項目が平均得点率で 85%以上となり、多くの企業が、満点を含む 80%以上の高い得点率 (評価点/配点 (以下省略)) の評価を受けた。

- ① 投資家にとって重要と判断される事項を遅滞なく十分に開示 (平均得点率 90%、[満点: 4 社、90%: 10 社、80%: 1 社])
- ② IR 担当者への電話やメールでのアクセスの容易性 (同 85%、[満点: 5 社、90%台: 4 社、80%台: 5 社])
一方、特に次の項目については、依然として平均得点率が低く一部の数社を除き、今後の改善が強く望まれる。
 - ・ 施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等の積極的な実施 (平均得点率 50% (昨年度同率)、[50%以下: 9 社 (70%台以上: 4 社)])

また、業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、海運 (3 社) 76.4 点、空運 (2 社) 70.9 点、

陸運（10社）65.4点、倉庫・運輸（3社）52.5点となっており、依然として陸運および倉庫・運輸の下位評価企業の全般的な改善努力が強く望まれる状況に変わりはない。

(2) 上位個別企業の評価概要

東日本旅客鉄道（ディスクロージャー優良企業〔2回連続6回目〕、総合評価点：85.4点、第1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（得点率〈以下省略〉87%）および説明会等（84%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（88%）、コーポレート・ガバナンス関連（82%）および自主的情報開示（89%）が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣がIR部門に十分な人員配置をする等バックアップが感じられるほか、社長が定期的なミーティングを開催していること等、経営陣のIR姿勢が高く評価された。また、IR部門に連結子会社の動向を含めた情報集約がされており、担当者と経営陣の発言がほぼ一致しており有益なディスカッションができるほか、担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、常にIR改善の努力が見られること等、同部門の機能が充実している点が極めて高い評価を受けた。

説明会等においては、インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解が深まる説明をしている点や、決算説明会における説明および質疑応答が適切であることが評価された。また、説明資料等に、収益および財務分析に必要な情報を十分に記載していること等も高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホームページでの情報提供等、この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、総還元性向を具体的に掲げるなどして、株主還元ガイドラインを明示し実行している点が高い評価を受けた。さらに、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況を説明している点も高く評価された。

自主的情報開示では、対象企業の平均得点率が最も低水準（50%）であった項目に関し、積極的に施設見学会を開催する姿勢が他社と格差のある高い得点率のトップの評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日本郵船（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【本年度第2位、昨年度、一昨年度第3位】、総合評価点：79.1点）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（87%）が第1位、説明会等（78%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（85%）が第2位、コーポレート・ガバナンス関連（70%）が4社同得点第5位、自主的情報開示（73%）が第5位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、社長が年4回の決算説明会に出席し、率直な意見交換ができることに加え、経営陣のほか多数の役員や部長職と有益なミーティングの機会を継続的に設定している等、経営陣のIRへの取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門のトップに役員を配置して取材に対応していると共に、IR担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR改善の努力を継続していることも評価された。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が適切であることが評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホームページでの情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示では、国内外の施設見学会等の開催が有益であったことが相対的に高い評価となった

以上の結果、同社は一昨年度以降も連続して上位の評価を受けた。同社がこのような高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

ヤマトホールディングス（総合評価点：78.3点、第3位←5位）

同社は、社長との定期的ミーティングが充実していることが高い評価を受けた。また、説明資料等に、収益および財務分析に必要な情報を十分に記載していることが高く評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点も高い評価を受けた。また、フェア・ディスクロージャーに関して、その取組姿勢やホーム・ページでの情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。加えて、施設見学会等の開催が有益であったことも高い評価となった。

ANA ホールディングス（総合評価点：78.2点、第4位←2位）

同社は、IR部門に十分な情報が集約され、担当者と有益ディスカッションできることが高い評価を受けた。また、説明資料等に、収益および財務分析に必要な情報を十分に記載していること等も高く評価された。さらに、フェア・ディスクロージャーに関して、その取組姿勢やホーム・ページでの情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

東京急行電鉄（総合評価点：76.1点、第5位←8位）

同社は、IR部門に十分な情報が集約され、担当者と有益なディスカッションできることのほか、インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解が深まる説明をしている点も高く評価された。また、説明資料等に収益および財務分析に必要な情報を十分に記載していること等が極めて高い評価を受けたことに加え、四半期情報開示の内容についても高く評価された。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (運輸)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(9020) 東日本旅客鉄道	85.4	22.5	2	30.1	2	9.7	1	10.6	1	12.5	1	1
2	(9101) 日本郵船	79.1	22.6	1	27.9	4	9.3	2	9.1	5	10.2	5	3
3	(9064) ヤマトホールディングス	78.3	21.2	6	27.8	5	9.1	4	9.0	9	11.2	2	5
4	(9202) ANAホールディングス	78.2	21.3	5	28.4	3	9.2	3	9.5	4	9.8	6	2
5	(9005) 東京急行電鉄	76.1	16.9	8	31.2	1	8.5	6	10.0	2	9.5	8	8
6	(9021) 西日本旅客鉄道	76.0	18.9	7	27.8	5	8.9	5	9.6	3	10.8	3	4
7	(9107) 川崎汽船	75.8	21.9	3	27.0	8	8.5	6	9.0	9	9.4	9	6
8	(9104) 商船三井	74.8	21.9	3	27.2	7	7.9	9	8.9	11	8.9	11	7
9	(9007) 小田急電鉄	66.2	15.6	13	24.3	10	7.4	12	9.1	5	9.8	6	未実施
9	(9022) 東海旅客鉄道	66.2	16.2	11	24.7	9	8.0	8	6.7	16	10.6	4	9
11	(9201) 日本航空	62.6	16.0	12	23.5	11	7.5	11	9.1	5	6.5	14	未実施
12	(9008) 京王電鉄	60.8	13.6	15	23.3	12	6.8	13	9.1	5	8.0	12	13
12	(9062) 日本通運	60.8	16.4	10	21.6	13	6.0	15	7.7	13	9.1	10	12
14	(9375) 近鉄エクスプレス	59.6	16.7	9	21.3	14	7.7	10	7.9	12	6.0	15	11
15	(9370) 郵船ロジスティクス	53.6	14.8	14	18.9	16	6.1	14	6.7	16	7.1	13	10
16	(9075) 福山通運	48.5	12.6	16	19.7	15	3.7	18	7.4	14	5.1	16	14
17	(9301) 三菱倉庫	44.1	11.7	17	17.5	17	5.3	16	7.0	15	2.6	18	15
18	(9086) 日立物流	34.8	8.1	18	13.6	18	3.9	17	6.4	18	2.8	17	16
	評価対象企業評価平均点	65.8	17.1		24.2		7.5		8.6		8.4		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は13.8点、昨年度は14.2点であった。

25年度評価項目および配点(運輸)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (26点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
② 経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していますか。	8
(2) IR部門の機能	
① IR担当者への電話やメールでのアクセスが容易ですか。	2
② IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができますか。	3
③ IR担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR改善の努力を継続していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	6
② インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	8
② 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	8
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
② 四半期ごとの説明会(電話会議を含む)を開催していますか。【開催あり:3点 開催なし:0点】	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく十分に行われていますか。【1点、0.5点、0点の評価とする】	1
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	2
② 決算説明会等の状況のホーム・ページでの公開について	
A 決算説明会等での会社側の説明内容は分かりやすいですか。	4
B 決算説明会等での質疑応答の内容は分かりやすいですか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (13点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示	
・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの用途、財務バランス、資金調達について十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(3) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14点)
① 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。(E-mail、FAX、ホーム・ページ等で)	4
② 施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施していますか。【過去1年間を目安に評価】	5
③ 日本語版のアンニュアルレポート、ファクトブックの内容は充実していますか。	5

運輸専門部会委員

部会長	一柳 創	大和証券
部会長代理	板崎 王亮	SMBC 日興証券
	尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	國枝 哲	みずほ証券
	重松 揮響	三井住友信託銀行
	土谷 康仁	リクルー日本証券
	原田 潤	UBS 証券

評価実施アナリスト（25名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	中川 真紀子	富国生命投資顧問
石飛 益徳	エス経済研究所	原田 潤	UBS 証券
板崎 王亮	SMBC 日興証券	一柳 創	大和証券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	姫野 良太	パークレイズ証券
小田島 裕樹	りそな銀行	平野 太郎	アライアンス・パートナーズ
國枝 哲	みずほ証券	廣兼 賢治	野村証券
三箇 和樹	三井住友アセットマネジメント	舩江 輝	シティグループ証券
重松 揮響	三井住友信託銀行	三木 泰二	みずほ信託銀行
鈴木 貴	ニッセイアセットマネジメント	村形 真樹子	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
高橋 輝晃	MU 投資顧問	山崎 慎一	岡三証券
土谷 康仁	リクルー日本証券	山本 恵嗣	JPモルガン・アセット・マネジメント
手塚 裕一	三井住友信託銀行	若林 恵太	水戸証券
富田 展昭	極東証券経済研究所		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通信・インターネット

〔カカコム、ディー・エヌ・エー、グリー、ヤフー、日本電信電話、KDDI、NTTドコモ、ソフトバンク〕
(計8社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		22	100

(注) 具体的な評価項目および配点は71頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは34社の38名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は70頁参照）。

本年度は、具体的評価項目のうち、ホーム・ページにおける情報提供および英語による情報提供の即時性について、新たな内容に変更すると共に、自主的情報開示の分野の1項目を削除し、その配点を同分野の他の項目に加えて評価を実施した。項目・配点が一部変更になった本年度の総合評価平均点は69.4点であった。（ちなみに昨年度の評価点を上回った企業が多く《5社》昨年度比では、+3.8点）。また、昨年度を上回った企業に上位3社が含まれた反面、下位2社が下落したこともあって、総合評価点の標準偏差は11.4点（昨年度8.8点）となった。

評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、経営陣のIR姿勢等が73%、説明会等が72%、フェア・ディスクロージャーが80%、コーポレート・ガバナンス関連が60%、自主的情報開示が55%で、コーポレート・ガバナンス関連と自主的情報開示は、他の分野に比し低水準の評価となった。ちなみに、フェア・ディスクロージャーは、新たな内容に変更した項目等すべての水準が総じて高く、昨年度を11ポイント上回る結果となった。

具体的評価項目について見ると、全22項目中、6項目が平均得点率で80%以上となり、次の①②はそれぞれ1社を除き満点および85%以上の、③は2社を除き90%の高い得点率（評価点/配点（以下省略））の評価を受けた。

- ① 会社主催の決算説明会（電話会議を含む）への社長の出席〔3回以上出席：満点〕（平均得点率93%、〔満点：7社〕）
- ② ホーム・ページでの有用な情報提供（過去の時系列データ、説明会の動画・質疑応答の状況等）（同90%、〔得点率90%台：5社、85%：2社〕）
- ③ 外国人投資家に配慮した情報提供（ホーム・ページ、説明会資料、説明会時の和英同時通訳体制等）（同80%〔同90%：6社〕）

一方、次の項目については、一部の企業を除き、今後の改善が望まれる。

- ・ 会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設けており、その有益性（平均得点率 44%〔評価項目中最低〕、〈昨年度 40%〉、〔得点率 40%台以下：5 社〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

KDDI（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 8 回目〕、総合評価点：80.8 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率）（以下省略）85%）および**説明会等**（83%）が第 2 位、**フェア・ディスクロージャー**（88%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）および**自主的情報開示**（73%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が自身の言葉で IR を意識して語っているほか、社長をはじめとして有益なディスカッションができることが高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が集積されているほか、担当者間でも情報を良くを共有しており、担当者と有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることが高く評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも評価された。

説明会等においては、オペレーションデータの四半期ごとの実績および見通しの開示が十分である点等、説明会資料における開示が充実している点が高い評価を受けた。加えて、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることも高く評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等について高い評価を受けた。また、**コーポレート・ガバナンス関連**では、目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての十分な説明も評価された。

自主的情報開示においては、対象企業の平均得点率が最も低水準であった施設・設備等を紹介する機会の設定、および決算説明会以外の事業戦略説明会等有益であったことが、他の 2 社と共に相対的に高い評価となった。また、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示している点も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

カカコム（総合評価点：79.6 点、第 2 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（90%）および**説明会等**（86%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**（86%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（65%）が第 3 位、**自主的情報開示**（44%）が第 6 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営幹部とのミーティングは、社長が自ら丁寧に分かりやすく説明し、有意義なディスカッションができること等が好感され、極めて高い評価となった。さらに、IR 部門に十分な情報が集積されており、同部門の担当者とは有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることも極めて高く評価された。加えて、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが高い評価を受けた。また、営業費用の主要項目の実績を十分に開示していること等、説明会資料における開示も高く評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等について高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

日本電信電話（総合評価点：75.0 点、第 3 位←4 位）

同社は、自社株買や自社株消却方針について、客観的かつ合理的に説明していることが高く評価される等、**コーポレート・ガバナンス関連**の分野の 5 項目すべてが第 1 位の評価となった。また、決算発表日（四半期を含む）に決算内容の理解に必要な補足情報を、付属資料等で開示していること等、説明会資料における開示が高い評価を受けた。また、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示していることも評価された。

上記企業のほか、**NTT ドコモ**は、営業費用の主要項目の実績および見通しを十分に開示していることが評価される等、説明会資料における開示においてトップの評価となった。さらに、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示している点も評価された。

また、**ソフトバンク**は、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示している点が高い得点率のトップの評価となった。加えて、決算説明会以外の事業戦略説明会等が有益であったことが、他の2社と共に相対的に高く評価された。

以 上

平成25年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (通信・インターネット)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6 (配点30点)		3. フェア-ディスクロージャ- 評価項目5 (配点12点)		4. コーポレート・ガバナ-ンスに関連する情報の開示 評価項目5 (配点20点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点8点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(9433) KDDI	80.8	25.4	2	24.8	2	10.5	1	14.3	2	5.8	2	1
2	(2371) カカコム	79.6	26.9	1	25.9	1	10.3	3	13.0	3	3.5	6	3
3	(9432) 日本電信電話	75.0	21.5	6	22.9	3	10.2	4	15.7	1	4.7	4	4
4	(9437) NTTドコモ	73.6	22.5	5	22.2	4	10.4	2	12.9	4	5.6	3	2
5	(9984) ソフトバンク	70.7	23.0	4	21.3	6	9.9	5	10.6	6	5.9	1	7
6	(4689) ヤフー	70.4	23.1	3	21.5	5	9.8	6	11.4	5	4.6	5	6
7	(2432) デイ-エヌ-エ-	56.3	17.0	7	17.8	7	8.8	7	9.7	7	3.0	7	8
8	(3632) グリー	48.0	16.2	8	14.8	8	6.9	8	7.5	8	2.6	8	10
	評価対象企業評価平均点	69.4	22.0		21.5		9.6		11.9		4.4		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は11.4点、昨年度は8.8点であった。

25年度評価項目および配点(通信・インターネット)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 会社主催の決算説明会(電話会議を含む)に社長が出席していますか。 [3回以上:3点 1~2回:1点 なし:0点]	3
② 会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	9
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。	9
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	9
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	15
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 事業別もしくは会社別に、営業費用の主要項目(人件費、顧客獲得・維持費用、広告宣伝費、通信設備使用料、端末原価等)の実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
② 決算発表日(四半期を含む)に、決算内容の理解に必要な補足情報(サービス別売上・加入者、主な関係会社の業績、設備投資・減価償却費、サービス別EBITDA、セグメント別営業損益等の実績および予測値等)が、付属資料等で、十分に開示されていますか。	3
③ オペレーションデータ(契約数、ARPU、トラフィック、UU・MAU、解約率・買換率、課金率、端末販売・在庫台数等)の四半期ごとの、実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
④ キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
⑤ 会計基準の変更・セグメント見直し等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績修正発表、新サービス・新技術、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響等)の開示は、迅速かつ十分でしたか。	3
③ 国内外における合併・出資・提携・事業の統廃合等が、P/LおよびBSに与える影響について、迅速かつ十分に開示されていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供(過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等)を行っていますか。	2
(3) 英語による情報提供	
・ 外国人投資家にも配慮した情報提供(ホーム・ページ、説明会資料、説明会時の和英同時通訳体制、アニュアルレポート、ファクトブック等)に努めていますか。 [十分である:1点 やや不十分:0.5点 その他:0点]	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
(1) 株主還元策の開示	
① 配当政策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
② 自社株買、自社株消却が、客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
(2) 資本政策、目標とする経営指標等の開示	
① 資本政策の具体的な目標が明示され、かつその内容は十分なものですか。	4
② 目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(3) 経営機構、経営資源について	
・ 経営機構、経営資源について十分な説明がなされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 会社の注目されるサービスないし施設・設備を紹介する機会(記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか。 [過去1年間を目安に評価]	5
② マネジメントのメディアでの発言内容は、迅速かつ十分な内容で開示されていますか。	3

通信・インターネット専門部会委員

部会長	忍足 大介	JPモルガン・アセット・マネジメント
部会長代理	増野 大作	野村證券
	大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント投信
	津坂 徹郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	土門 泰	りそな銀行
	早川 仁	クレディ・スイス証券
	米島 慶一	バークレイズ証券

評価実施アナリスト (38名)

石井 隆一	立花証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
石塚 浩一	DIAM アセットマネジメント	津坂 徹郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
石原 太郎	大和証券	角田 佑介	東海東京調査センター
伊藤 彰洋	三井住友アセットマネジメント	寺島 正	大和証券投資信託委託
岩渕 啓介	岡三証券	土門 泰	りそな銀行
上杉 佳代	日興アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
上野 賢司	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント投信	早川 仁	クレディ・スイス証券
忍足 大介	JPモルガン・アセット・マネジメント	張江 徹也	大和住銀投信投資顧問
加賀 章弘	アライアンス・パートナーズ	福岡 靖記	丸三証券
木下 芳之	メリリッチ日本証券	藤田 要	いちよし経済研究所
小山 洋美	国際投信投資顧問	増野 大作	野村證券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	松橋 郁夫	ゴールドマン・サックス証券
島田 秀明	富国生命投資顧問	宮崎 充	SMBCフレッド調査センター
嶋津 正明	農林中金全共連アセットマネジメント	安田 秀樹	エース経済研究所
下川 寿幸	立花証券	山口 威一郎	大和証券投資信託委託
高橋 圭	みずほ証券	山科 拓	BNPパリバ証券
多功 英貴	シティグループ証券	吉田 純平	野村證券
田嶋 由利子	三井住友信託銀行	米島 慶一	バークレイズ証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

商 社

〔 双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事 (計7社：コード順) 〕

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	13	38
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	8
計		29	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 77 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 23 社の 23 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 76 頁参照）。

本年度は、評価項目の具体的内容および配点を昨年度と同一で評価を実施した。本年度は、評価対象企業 7 社のうち 5 社の総合評価点が昨年度を下回ったことから、総合評価平均点は昨年度の 76.5 点より 2.2 点低い 74.3 点となった。ちなみに、総合評価点の標準偏差は 2.8 点と前回（5.6 点）から大幅に縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%（昨年度 76%）、**説明会等**が 75%（同 76%）、**フェア・ディスクロージャー**が 88%（同 89%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 69%（同 76%）、**自主的な情報開示**が 60%（同 66%）といずれも昨年度を下回り、特に**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的な情報開示**の下落幅が大きかった。

また、具体的評価項目について見ると、29 項目中**フェア・ディスクロージャー**の全項目を含む 11 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 2 項目は、全社が満点ないしは 90%の高い得点率（評価点／配点（以下省略））の評価となった。

- ① ホーム・ページでの有用な情報提供（満点：6 社、得点率 90%：1 社）
- ② 対外的プレゼンテーション資料を遅滞なく十分にホーム・ページに掲載（満点：4 社、同 90%：3 社）

(2) 上位個別企業の評価概要

伊藤忠商事（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点：79.3 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）80%）、**説明会等**（79%）および**フェア・ディスクロージャー**（92%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）が第 2 位、**自主的な情報開示**（69%）が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会およびミーティングで、社長と定期的に今後の経営方針等について有意義な対話が可能であること等、経営陣の IR

姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門に情報がタイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができることや、各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれる点等、同部門の機能についても評価された。

説明会等においては、事業計画および中期の経営方針を具体的に説明していることや、質疑応答が満足できる点等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。また、説明資料等に、為替、金利、商品価格等の変動による損益への影響を十分に説明していることが評価されたほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点が高い評価となった。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、現在採用している経営機構についての十分な説明が高く評価されたほか、資本政策、株主還元策に対する考え方の説明もトップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、評価対象企業の平均得点率が最も低水準（58%）であった、事業を理解する上で重要な説明会等に関し、東南アジア事業見学会を実施し、その内容が有益であったことで相対的に高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

三井物産（総合評価点：75.4点、第2位←4位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（75%）が第3位、説明会等（78%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（88%）が2社同得点第3位、コーポレート・ガバナンス関連（66%）が第7位、自主的情報開示（64%）が第4位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、経営陣のIR姿勢等においては、IR部門が各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれること等、同部門の機能が評価された。

説明会等においては、説明資料等に、一過性の要因（貸倒引当金繰入額、固定資産にかかわる損益、有価証券損益およびその他特別の損益）の詳細な内訳の実績と発生理由や、持分法投資損益のセグメント別実績および変動要因が十分に記載されている点等が高く評価された。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が開示されている点も高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

丸紅（総合評価点：74.3点、2社同得点第3位←2位、分野別では、経営陣のIR姿勢等（75%）第2位、説明会等（74%）第5位、フェア・ディスクロージャー（89%）第2位、コーポレート・ガバナンス関連（74%）第1位、自主的情報開示（55%）第6位）

同社は、経営陣との定期的なミーティングを開催し、今後の経営方針等についての社長の考えが適宜発信されていること等、経営陣のIR姿勢が高い評価を受けたほか、IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができる点も評価された。また、フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。さらに、コーポレート・ガバナンス関連においては、現在採用している経営機構についての説明や、重視する指標とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策や、その進捗状況についての説明が高く評価された。

三菱商事（総合評価点：74.3点、2社同得点第3位←5位、分野別では、経営陣のIR姿勢等（73%）第4位、説明会等（74%）第4位、フェア・ディスクロージャー（86%）第5位、コーポレート・ガバナンス関連（67%）第6位、自主的情報開示（74%）第1位）

同社は、IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができる点が高い評価を受けた。また、低収益あるいは赤字の事業についても開示を行い、今後の改善の展望を示している点も評価された。さらに、次期の事業計画および中長期の経営方針を具体的に説明していることや、質疑応答が満足できる点等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。加えて、事業を理解する上で重要な説明会等に関し、タイ事業見学会を実施し、有益であったことがトップの評価となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

豊田通商（総合評価点：71.1点〔昨年度比+4.6点《第1位》〕、第6位←7位）

同社は、評価対象企業7社のうち5社の総合評価点が昨年度を下回った中で、5分野のうち4分野で昨年度を上回る評価となり、上記のような評価点のアップにつながった。特に、事業を理解する上で重要な説明会等に関し、タイ事業見学会を実施し、有益であったことで昨年度を大きく上回る得点率（+42ポイント）の相対的に高い評価を受けた。

以 上

平成25年度 ティスクロージャー評価比較総括表 (商社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ローチャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(8001) 伊藤忠商事	79.3	27.3	1	30.1	1	9.2	1	7.2	2	5.5	3	1
2	(8031) 三井物産	75.4	25.4	3	29.5	2	8.8	3	6.6	7	5.1	4	4
3	(8002) 丸紅	74.3	25.6	2	28.0	5	8.9	2	7.4	1	4.4	6	2
3	(8058) 三菱商事	74.3	24.9	4	28.2	4	8.6	5	6.7	6	5.9	1	5
5	(8053) 住友商事	74.0	24.4	7	29.2	3	8.8	3	7.1	3	4.5	5	3
6	(8015) 豊田通商	71.1	24.7	6	25.5	7	8.4	7	6.9	4	5.6	2	7
7	(2768) 双日	71.0	24.9	4	27.8	6	8.5	6	6.8	5	3.0	7	6
	評価対象企業評価平均点	74.3	25.4		28.4		8.8		6.9		4.8		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は2.8点、前回は5.6点であった。

25年度評価項目および配点(商社)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (34点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 決算説明会、またはミーティングにおいて、会長または社長と今後の経営方針等について有意義なディスカッションができますか。	8
② 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	5
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
② IR部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	8
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (38点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 次期の事業計画および中長期の経営方針が具体的に説明されていますか。	4
② 質疑応答は十分に満足できるものですか。	4
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 受取利息、支払利息、受取配当金(国内・外)の内訳の実績と増減要因は十分に記載されていますか。 [そう言える=1点 そう言えない=0点]	1
② 一過性の要因(貸倒引当金繰入額、固定資産にかかわる損益、有価証券損益およびその他特別な損益)の詳細な内訳の実績と発生理由は十分に記載されていますか。	3
③ 主要国・地域別および事業部門別の投資、融資、債務保証残高およびそれらの変動要因が十分に記載されていますか。	2
④ 持分法投資損益のセグメント別実績および変動要因は十分に記載されていますか。	3
⑤ 業績の好・不調を問わず主要な子会社、関連会社、グループ関係企業の損益変動・その要因、見通しが十分に記載されていますか。	4
⑥ 為替、金利、商品価格・生産/販売数量の実績および計画の前提が十分に記載・説明されていますか。	3
⑦ 為替、金利、商品価格等の変動リスクに対するバランスシート(資産、負債共に)および損益の感応度が十分に記載・説明されていますか。	3
⑧ 主な投融資について案件、金額等の開示が十分に行われていますか。	3
⑨ 連結対象会社数の増減等によって生じた収益への影響は詳細に記載されていますか。	2
⑩ セグメント変更や会計方針の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。 [該当がない場合には満点評価とする]	2
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、リスク情報等)の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページで有用な情報提供を行っていますか。 [そう言える=1点 そう言えない=0点]	1
② 対外的プレゼンテーション資料が遅滞なく十分にホーム・ページに掲載されていますか。 [そう言える=1点 そう言えない=0点]	1
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。 [そう言える=1点 そう言えない=0点]	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 経営機構について	
・ 現在採用している経営機構について十分な説明がなされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標(例えば、ROE、リスク・リターン指標等)とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	3
② ①の進捗状況およびそれらをフォローする監視体制等が十分説明されていますか。	2
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	6
② E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

商社専門部会委員

部会長	成田 康浩	野村證券
部会長代理	栗原 英明	東海東京調査センター
	五百旗頭 治郎	大和証券
	高野 智尚	大和住銀投信投資顧問
	田嶋 由利子	三井住友信託銀行
	永野 雅幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	村上 貴史	SMBC 日興証券

評価実施アナリスト（23名）

五百旗頭 治郎	大和証券	田嶋 由利子	三井住友信託銀行
石井 宏	国際投信投資顧問	寺島 正	大和証券投資信託委託
石口 政樹	富国生命投資顧問	富田 展昭	極東証券経済研究所
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	永野 雅幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
沖本 修朗	新光投信	成田 康浩	野村證券
栗原 英明	東海東京調査センター	濱口 実	みずほ信託銀行
下川 寿幸	立花証券	林 明史	みずほ証券
城野 俊之	BNPパリバ証券	平井 明子	アムンティ・ジャパン
添谷 昌生	りそな銀行	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
高野 智尚	大和住銀投信投資顧問	村上 貴史	SMBC 日興証券
高橋 輝晃	MU 投資顧問	森 和久	バークレイズ証券
竹内 克弥	UBS 証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

ローソン、エービーシー・マート、J. フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、セブン&アイ・ホールディングス、ドン・キホーテ、スギホールディングス、ファミリーマート、しまむら、高島屋、丸井グループ、イオン、ユニーグループ・ホールディングス、ケーズホールディングス、ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ (計 18 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たにスギホールディングスを加え、計 18 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	27
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	11	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	18
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	3	9
計		26	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 83 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 29 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 82 頁参照)。

本年度は、評価項目の具体的内容および配点を昨年度と同一で評価を実施した。本年度の総合評価平均点は 72.5 点となり昨年度 (73.0 点) に比べ改善は見られなかった。また、総合評価点が昨年度を下回った企業が下位グループに多かったこと等から、総合評価点の標準偏差も 8.7 点で昨年度 (8.2 点) に比べ若干拡大した。

業態別の総合評価平均点は、高得点順に、コンビニエンスストア[2 社]: 85.4 点 (昨年度 86.3 点)、百貨店[4 社]: 77.3 点 (同 75.2 点)、総合小売[3 社]: 69.6 点 (同 72.9 点)、専門店[9 社]: 68.7 点 (同 69.5 点) となった。本年度は、百貨店のみが昨年度の評価点を上回り、特に総合小売は全社共下回って、うち 1 社の下落幅が大きかった。

評価項目の 5 分野について平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71% (昨年度 72%)、説明会等が 76% (同 77%)、フェア・ディスクロージャーが 79% (同 81%)、コーポレート・ガバナンス関連が 66% (同 66%)、自主的信息開示が 62% (同 61%) となり、5 分野共昨年度と同水準であった。

また、具体的評価項目について見ると、平均得点率で 80%以上の評価項目が説明会等の分野などの 10 項目 (昨年度 12) となった。特に次の 3 項目すべてについて、18 社中 15 社が得点率 (評価点/配点 (以下省略)) 80%以上の高い水準の評価となった。

- ① 出退店についての実績および計画の十分な記載 (平均得点率 85%、[得点率 90%台: 12 社、80%台: 4 社])

- ② セグメント分類や会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の十分な開示 (同 85%、〔同 90%台：5 社、80%台：11 社〕)
- ③ 投資家にとって重要と判断される事項 (例えば、業績変動、合併・提携等) が発生した場合、迅速かつ公平な説明 (同 87%、〔同 90%台：9 社、80%台：7 社〕)

一方、次の①の項目については、直近数年の各評価結果において一部の企業を除き改善を促しているが、本年度も専門店全社を中心に依然として得点率は低く、多数の企業にあってはさらなる改善の努力が強く望まれる。

- ① 店舗や商品展示見学会の積極的な実施 (平均得点率 47% (過去 4 年：37%~47%)、〔得点率 50%以下：13 社 (専門店 9)〕)

また、次の②については、昨年度に続き 2 番目に低い水準の平均得点率であり、①と同様に多数の企業において今後の改善が望まれる。

- ② IR 部門以外のセクション (店舗、物流センター、海外拠点等) へのインタビュー等についての積極的な対応 (同 56%、〔同 50%台以下：10 社〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

ローソン (ディスクロージャー優良企業 [2 回連続 7 回目]、総合評価点：85.9 点、第 1 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (得点率 (以下省略) 89%) および**説明会等** (86%) が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー** (86%) が 3 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連** (84%) が第 1 位、**自主的情報開示** (82%) が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会等で経営トップが経営方針等を明確に分かりやすく説明していること等、**経営陣の IR 姿勢**が高い評価を受けた。また、IR 部門に、グループ会社を含む情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実している点や、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが極めて高い評価を受けた。さらに、説明資料等における開示が全体的に分かりやすく充実している点が極めて高く評価され、加えて、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示していることも高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。また、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、資本政策や株主還元策について客観的かつ合理的に説明しているほか、経営目標ならびにガバナンス体制についての説明等、この分野の全項目でトップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、評価対象企業の平均得点率が最も低水準 (47%) であった店舗や商品展示見学会の実施に関し、商品展示会等を開催していることで相対的に高い評価となったほか、日本語アニュアルレポートの内容が充実している点も高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ファミリーマート (総合評価点：83.8 点、第 2 位←2 位)

同社は、長年にわたり高順位の評価を維持しているところであり、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (85%) が第 2 位、**説明会等** (85%) が第 3 位、**フェア・ディスクロージャー** (86%) が 3 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連** (76%) が第 3 位、**自主的情報開示** (87%) が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、担当者が敏速に対応している点等、同部門の機能が充実していることについて極めて高い評価を受けた。加えて、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが高く評価されたほか、評価対象企業の平均得点率が 2 番目に低水準 (56%) であった、**IR 部門以外のセクション**へのインタビュー等についての積極的な対応が、相対的に高い得点率でトップとなった。また、説明資料等における開示が全体的に充実している点も高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。また、コ

コーポレート・ガバナンス関連においては、株主還元策についての説明のほか、経営目標ならびにガバナンス体制についての説明が評価を受けた。

自主的情報開示においては、店舗や商品展示見学会の実施に関し、商品展示会や各種テーマに沿った説明会を積極的に開催していることで、高い得点率でトップとなった。加えて、ファクトブックや日本語アニュアルレポートならびに CSR や環境報告書の内容が充実している点も高い評価を受けた。

J. フロント リテイリング（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3回連続第3位】、総合評価点：81.6点）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（83%）が第3位、説明会等（85%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（86%）が3社同得点第2位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）が第2位、自主的情報開示（66%）が第8位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、経営陣の IR 姿勢等においては、決算説明会等において経営トップが経営戦略を明確に説明していることが評価されたほか、IR 部門の機能が充実している点も高い評価を受けた。加えて、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打ち出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることや、説明資料等における開示が全体的に充実している点が極めて高い評価を受けた。さらに、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示していることも高く評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、経営陣が情報開示につき公平な機会を与えている点等、この分野全体について高く評価された。また、コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標等の説明が高い評価を受けた。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

ドン・キホーテ（総合評価点：79.6点、第4位←5位）

同社は、経営トップが、決算説明会等において経営方針等を十分に説明していることが高く評価されたほか、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されていることや、同部門の敏速な対応に加え、担当者と有益なディスカッションができる点が極めて高い評価を受けた。さらに、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等についての対応が、相対的に高い得点率となった。加えて、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示していることも高い評価を受けた。

三越伊勢丹ホールディングス（総合評価点：78.7点（昨年度比+3.9点《第1位》）、第5位←8位）

同社は、26の具体的評価項目のうち、15項目は昨年度の得点率を上回り、10項目は同率の評価を受けた。これにより、5分野すべての得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の最大アップにつながった（5分野すべて改善は他に1社）。特に、フェア・ディスクロージャーに関して、その取組姿勢等この分野全体について高く評価されたほか、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることや、説明資料等における開示が全体的に高く評価された。

上記企業のほか、セブン&アイ・ホールディングスは、店舗や商品展示見学会の実施に関し、商品展示会を定期的に開催していることで、第2位の高い得点率となった。加えて、ファクトブック（「コーポレートアウトライン」）、CSR や環境報告書の内容が充実している点も高い評価を受けた。

以上

平成25年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (小売業)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャリー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 27点)	順位	評価項目11 (配点 30点)	順位	評価項目4 (配点 18点)	順位	評価項目4 (配点 16点)	順位	評価項目3 (配点 9点)	順位	
1	(2651) ローソン	85.9	23.9	1	25.7	1	15.5	2	13.4	1	7.4	3	1
2	(8028) ファミリーマート	83.8	23.0	2	25.4	3	15.5	2	12.1	3	7.8	1	2
3	(3086) J. フロントリテイリング	81.6	22.4	3	25.6	2	15.5	2	12.2	2	5.9	8	3
4	(7532) ドン・キホーテ	79.6	22.0	4	24.8	5	15.3	6	11.3	6	6.2	6	5
5	(3099) 三越伊勢丹ホールディングス	78.7	21.3	7	24.5	6	15.6	1	10.8	7	6.5	4	8
6	(3382) セブン&アイ・ホールディングス	78.6	21.4	6	23.9	7	14.2	9	11.4	5	7.7	2	4
7	(7649) スギホールディングス	76.1	21.6	5	24.9	4	14.8	7	10.3	10	4.5	14	未実施
8	(8233) 高島屋	74.8	20.1	9	23.6	8	15.4	5	10.1	12	5.6	10	9
9	(8282) ケーズホールディングス	73.5	20.7	8	23.4	10	14.1	10	10.3	10	5.0	11	6
10	(9983) ファーストリテイリング	73.1	19.7	10	21.6	13	13.6	13	12.0	4	6.2	6	12
11	(8252) 丸井グループ	73.0	18.9	13	23.0	11	14.6	8	10.8	7	5.7	9	13
12	(8227) しまむら	70.6	19.1	11	23.6	8	14.0	11	10.0	13	3.9	15	7
13	(9989) サンドラッグ	68.9	19.1	11	22.5	12	13.0	16	10.5	9	3.8	17	11
14	(8270) ユニグループ・ホールディングス	66.3	16.7	15	21.5	14	13.9	12	9.3	16	4.9	12	10
15	(2670) エービーシー・マート	64.3	17.0	14	21.1	15	13.1	15	9.2	17	3.9	15	14
15	(8267) イオン	64.3	15.7	16	19.4	16	13.5	14	9.4	15	6.3	5	15
17	(9831) ヤマダ電機	57.4	14.8	17	16.7	18	12.6	17	8.7	18	4.6	13	16
18	(9843) ニトリホールディングス	54.2	11.6	18	17.7	17	11.8	18	9.7	14	3.4	18	17
	評価対象企業評価平均点	72.5	19.3		22.8		14.2		10.6		5.6		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.7点、昨年度は8.2点であった。

25年度評価項目および配点（小売業）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (27点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IR部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができますか。	5
② IR部門へのアクセスの容易性はどうか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンが明確に打ち出されていますか。	7
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は、十分に満足できるものですか。	3
② IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	5
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示 〔以下①-⑧については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕	
① 主要セグメント別の売上高、営業利益、資産、設備投資額、減価償却費について、十分に記載されていますか。	2
② 地域別、商品部門別(含む粗利益率)、顧客別等の売上高内訳は、詳細に記載されていますか。	2
③ 次期の事業計画(営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費等)は、十分に記載されていますか。	2
④ 出退店についての実績および計画(売上高、設備投資額、売り場面積、総面積、開閉店時期等)は、十分に記載されていますか。(コンビニエンスストアについては地域別およびタイプ別に記載されているか)	2
⑤ 販売費および一般管理費の主要項目(人件費、地代家賃、広告宣伝費等)の実績と見通しは、十分に記載されていますか。	2
⑥ 月次の売上状況(既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価等)および次期見通しは、十分に記載されていますか。	2
⑦ 固定資産・在庫・のれん等の資産評価にかかわる特別な損益について十分に開示していますか。	2
⑧ セグメント分類や会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていますか。	6
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (18点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	10
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携等)が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や月次のデータが、ホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、グループ持合政策、優先株)について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
② 配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について、十分説明されていますか。	5
(3) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (9点)
① 店舗や商品展示の見学会を積極的に実施していますか。〔過去1年間を目安に評価〕	3
② ファクトブックや日本語のアンニュアルレポートは作成され、内容が充実していますか。	3
③ CSR報告書・環境報告書の内容は充実していますか。	3

小売業専門部会委員

部会長	正田 雅史	野村證券
部会長代理	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	高橋 俊雄	みずほ証券
	武久 緩美	JP モルガン・アセット・マネジメント
	宮田 仁光	三井住友信託銀行
	村田 大郎	JP モルガン証券
	山手 剛人	クレディ・スイス証券

評価実施アナリスト（34名）

五十崎 義将	大和証券	高田 訓弘	三菱 UFJ 投信
石賀 健	アライアンス・パートナーズ	高橋 俊雄	みずほ証券
石飛 益徳	エース経済研究所	武久 緩美	JP モルガン・アセット・マネジメント
伊藤 彰洋	三井住友アセットマネジメント	田中 俊	SMBC フレンド調査センター
大石 益美	いちよし経済研究所	田村 真一	極東証券経済研究所
岡本 大典	富国生命投資顧問	津田 和徳	大和証券
峽 鶴恵	東京海上アセットマネジメント投信	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
風早 隆弘	ドイツ証券	手塚 裕一	三井住友信託銀行
金森 都	SMBC 日興証券	中川 正人	みずほ証券
城戸 謙治	みずほ信託銀行	仲西 恭子	DIAMアセットマネジメント
栗島 理恵	水戸証券	花井 由紀子	日興アセットマネジメント
桑平 武志	りそな銀行	松岡 珠美	新光投信
高 英詞	野村アセットマネジメント	宮田 仁光	三井住友信託銀行
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	村田 大郎	JP モルガン証券
櫻井 亮	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	森 清	岡三証券
正田 雅史	野村証券	守屋 のぞみ	UBS 証券
是津 貴之	朝日ライフアセットマネジメント	山手 剛人	クレディ・スイス証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀行

新生銀行、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、横浜銀行、常陽銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、京都銀行、みずほフィナンシャルグループ
(計 13 社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	38
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	2	12
計		18	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 89 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 32 社の 37 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 88 頁参照）。

本年度は、具体的評価項目の一部の配点を見直して評価を実施した。本年度は全社が昨年度の総合評価点を上回り、総合評価平均点は 76.8 点と昨年度（72.1 点）より 4.7 点アップした。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%、**説明会等**が 79%、**フェア・ディスクロージャー**が 83%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 79%、**自主的信息開示**が 62%となり、昨年度と同様に**自主的信息開示**を除き 70%を上回る水準であった。

当業界の特徴は総じて総合評価点格差が小さいということであるが、昨年度は、60 点台の評価点が 4 社であったのに対し、本年度は 1 社となり、対象企業の総合評価点標準偏差は、昨年度の 4.6 点から 4.0 点へと縮小した。

また、主要銀行（7 社）と地方銀行（6 社）の総合評価平均点は、それぞれ 78.9 点（昨年度 73.4 点）と 74.2 点（同 71.1 点）となり、昨年度に比べると格差が拡大した。

具体的評価項目について見ると、**説明会等**での 4 項目をはじめ全項目中半数の 9 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の項目は全社において、高い得点率（評価点／配点（以下省略））の評価となった。

- ① 決算短信の同時配布資料の内容は十分か（平均得点率 90%、〔得点率 90%台：11 社、80%台：2 社〕）
- ② 経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っているか（同 90%、〔同 90%台：12 社、85%：1 社〕）
- ③ アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実しているか（同 85%、〔同 90%台：6 社、80%台：7 社〕）

一方、直近数年に比べ本年度はやや改善が見られたものの、一部の企業を除き一層の改善の努力が望まれる点

として、IR部門とのミーティング以外の、子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等の積極的な実施が挙げられる。(平均得点率 57%、昨年度 47%、一昨年度 43% [本年度得点率 50% 台以下 : 6 社《昨年度 9 社》])

(2) 上位個別企業の評価概要

みずほフィナンシャルグループ

(ディスクロージャー優良企業 [2 回連続 3 回目]、総合評価点 : 82.6 点、第 1 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (得点率 (以下省略) 84%) が第 1 位、**説明会等** (80%) が第 4 位、**フェア・ディスクロージャー** (85%) が 2 社同得点第 5 位、**コーポレート・ガバナンス関連** (81%) が 2 社同得点第 2 位、**自主的情報開示** (88%) が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等で経営方針などを明確に説明しているほか、自ら率先して IR 活動に積極的である姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、同部門の担当者に対する質問への対応などが迅速・正確であること等、同部門の機能が充実している点が高い評価を受けた。さらに、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても積極的に開示する姿勢が見られることも評価された。

説明会等においては、部門別・項目別に損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明していることが評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての説明が評価された。

自主的情報開示においては、**IR Day** (各事業部門長による事業戦略説明会) を昨年度に引き続き開催したこと等が、高い得点率で第 1 位の評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

三井住友フィナンシャルグループ (総合評価点 : 82.0 点、第 2 位←3 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (83%) が第 2 位、**説明会等** (82%) および**フェア・ディスクロージャー** (87%) が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連** (81%) が 3 社同得点第 4 位、**自主的情報開示** (76%) が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等で経営方針を分かりやすく、丁寧に伝えようとする姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、同部門の担当者と有益なディスカッションができることが高い評価を受けた。さらに、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても積極的に開示する姿勢が見られる点も評価された。

説明会等においては、部門別・項目別に損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明していることや、主な連結子会社・関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明している点が高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページにおける情報提供等その取組姿勢について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての説明が高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、コンシューマーファイナンス事業や海外戦略説明会等を開催したことが、評価された。

三菱UFJフィナンシャル・グループ (総合評価点 : 80.3 点、第 3 位←2 社同得点 1 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (77%) が 2 社同得点第 7 位、**説明会等** (81%) が第 3 位、**フェア・ディスクロージャー** (86%) が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連** (78%) が 2 社同得点第 9 位、**自主的情報開示** (83%) が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的にみると、**説明会等**においては、部門別・項目別に、損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明していることや、主な連結子会社・関連会社の損益、財務の状況を説明している点が評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。
自主的情報開示においては、海外事業や ALM 運営等各種の事業戦略の説明会を開催したことが、高い得点率で第 2 位の評価を受けた。
以上のほか、中期経営計画を公表し、その達成のための具体的方策についての説明が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点：78.6 点、第 4 位←4 位）

同社は、IR 部門に十分な情報が集積され、同部門の機能が質、量共に充実していることが高い評価を受けた。
また、説明会等においては、部門別・項目別に損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明していることのほか、主な連結子会社・関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明している点や、四半期の開示資料の内容が十分であることも評価された。さらに、フェア・ディスクロージャーに関して、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

横浜銀行（総合評価点：78.3 点、第 5 位←7 位）

同社は、頭取が経営方針について自身の言葉で説明している点や、ビジネスごとの現況を詳細に説明していることが評価された。また、IR 部門を通じた経営陣へのアクセスが改善している点等、同部門の機能についても評価を受けた。さらに、資本政策・株主還元策が十分に説明されている点がトップの高い評価となったほか、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての十分な説明も評価された。

新生銀行（総合評価点：76.3 点（昨年度比+11.3 点《第 1 位》）、第 8 位←13 位）

同社は、18 の具体的評価項目の全項目で昨年度を上回る得点率の改善を示した唯一の銀行となり、総合評価点と順位の最大アップにつながった。継続的に開示されている四半期データブックは一覧性があり、見やすく充実していることが高い評価を受けたほか、部門別・項目別に損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明している点も評価された。また、決算発表および説明会が迅速に行われていることが得点率トップの評価となった。さらに、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての十分な説明も高い評価を受けた。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (銀行)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR専門の機能、IRの基本スタンス [評価項目3 (配点23点)]		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 [評価項目7 (配点38点)]		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目4 (配点11点)]		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 [評価項目2 (配点16点)]		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 [評価項目2 (配点12点)]		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(8411) みずほフィナンシャルグループ	82.6	19.3	1	30.5	4	9.3	5	13.0	2	10.5	1	
2	(8316) 三井住友フィナンシャルグループ	82.0	19.1	2	31.3	1	9.6	1	12.9	4	9.1	3	
3	(8306) 三菱UFJフィナンシャル・グループ	80.3	17.6	7	30.8	3	9.5	2	12.5	9	9.9	2	
4	(8309) 三井住友トラスト・ホールディングス	78.6	17.8	5	31.1	2	9.4	3	12.4	11	7.9	6	
5	(8332) 横浜銀行	78.3	17.8	5	30.4	5	9.0	8	13.4	1	7.7	7	
6	(8308) りそなホールディングス	78.1	18.0	3	29.8	9	9.3	5	12.5	9	8.5	4	
7	(8331) 千葉銀行	76.4	17.0	10	30.1	7	9.0	8	12.7	7	7.6	8	
8	(8303) 新生銀行	76.3	16.7	12	30.4	5	9.4	3	12.4	11	7.4	9	
9	(8333) 常陽銀行	76.0	17.6	7	28.9	11	8.5	12	12.7	7	8.3	5	
10	(8304) あおぞら銀行	74.6	17.5	9	28.8	12	9.0	8	12.9	4	6.4	10	
10	(8355) 静岡銀行	74.6	17.9	4	29.9	8	9.1	7	13.0	2	4.7	12	
12	(8354) ふくおかフィナンシャルグループ	73.5	16.9	11	29.7	10	8.9	11	12.9	4	5.1	11	
13	(8369) 京都銀行	67.1	16.2	13	27.4	13	8.1	13	11.3	13	4.1	13	
	評価対象企業評価平均点	76.8	17.6		30.0		9.1		12.7		7.4		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は4.0点、昨年度は4.6点であった。

25年度評価項目および配点(銀行)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (23点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	7
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (38点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示 (連・単の両決算)	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	10
② 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	8
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか。	5
④ 自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示が十分になされていますか。	5
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	2
② 四半期の開示資料の内容は十分ですか。	5
(3) 決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況)を行っていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	8
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① IR部門とのミーティング以外に、子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	10
② アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実していますか。	2

銀行専門部会委員

部会長	高井 晃	大和証券
部会長代理	野崎 浩成	シティグループ証券
	大槻 奈那	リソフ日本証券
	鮫島 豊喜	BNPパリバ証券
	田村 晋一	パークレイズ証券
	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
	山田 能伸	ドイツ証券

評価実施アナリスト (37名)

荒木 健次	三井住友信託銀行	高宮 健	野村証券
幾代 孝四郎	パインブリッジ・インベストメント	田中 克典	ゴールドマン・サックス証券
石井 宏	国際投信投資顧問	田村 晋一	パークレイズ証券
伊勢 和正	みずほ信託銀行	辻野 菜摘	JPモルガン証券
伊奈 伸一	UBS証券	坪内 豊	三井住友アセットマネジメント
今井 雅	DIAMアセットマネジメント	中村 真一郎	SMBC日興証券
岩下 暢道	大和住銀投信投資顧問	永本 成克	MU投資顧問
大槻 奈那	リソフ日本証券	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
岡崎 淳一	大和証券投資信託委託	野崎 浩成	シティグループ証券
國分 希	SMBC日興証券	橋本 浩	富国生命投資顧問
斎藤 佳奈	シティグループ証券	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
佐々木 太	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
佐藤 雅彦	野村証券	松野 真央樹	大和証券
鮫島 豊喜	BNPパリバ証券	水野 年章	農林中金全共連アセットマネジメント
菅原 繁男	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	宮本 太郎	みずほ投信投資顧問
是津 貴之	朝日ライフアセットマネジメント	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
瀬戸 浩	りそな銀行	山田 能伸	ドイツ証券
相馬 正欣	三井住友信託銀行	渡辺 和夫	アムンティ・ジャパン
高井 晃	大和証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

ウエストホールディングス、ミクシィ、コシダカホールディングス、UBIC、夢真ホールディングス、オプト、メッセージ、日本マクドナルドホールディングス、フィールズ、セリア、一建設、ソフトウェア・サービス、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、プロトコーポレーション、サイバーエージェント、楽天、エン・ジャパン、日特エンジニアリング、ハーモニック・ドライブ・システムズ、メイコー、オーデリック、イリソ電子工業、ライフネット生命保険、第一興商、フルヤ金属、大塚家具、スカイマーク、沖縄セルラー電話 (計 28 社・コード順)

1. 評価対象企業の選定

本新興市場銘柄の個別企業の評価対象は、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの五つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額上位（注 2）であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定以上の 28 社とした。なお、28 社中、19 社は昨年度からの継続評価対象企業、2 社は再対象企業（両社の前は、21 年度および 18 年度）、7 社は新たな評価対象企業である。

（注 1）アナリストに評価スコアシートを送付する本年 5 月下旬時点で上場後 1 年未満の企業は対象から除いている。

（注 2）本年度の対象企業の選定にあたって基準とした時価総額は、本優良企業選定のための準備作業開始直前の、昨年 12 月下旬時点のものである。

（注 3）本年 1 月に当協会で行った、新興市場銘柄をカバーしているアナリストについての調査結果を参考とした。

2. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	20
計		10	100

（注）具体的な評価項目および配点は 95 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 42 社の 101 名である。

3. 評価結果

(1) 総括

評価結果の概要は次のとおりである（ディスクロージャー評価比較総括表は 94 頁参照）。

本年度は、具体的評価項目の内容および配点を昨年度と同一で評価を実施した。

本年度の総合評価平均点は 63.6 点となった。本年度は、新たな対象企業が複数あることから、同列には比較はできないが、ちなみに昨年度（評価対象企業 30 社）の平均点は、61.1 点であった。総合評価点が 70 点台の水準となった企業は 5 社（昨年度 4 社）、60 点台が 14 社（同 14 社）で、60 点台以上の評価となった企業は昨年度より 1 社増加したが、これら企業の総合評価平均点は 67.2 点と昨年度（65.8 点）比+1.4 点であった。他方、50 点台の企業は 8 社（昨年度 9 社）、40 点台の企業は 1 社（同 3 社）と 50 点台以下の評価となった企業は昨年度より減少し、総合評価平均点も 56.1 点と昨年度（53.9 点）との比較で、上位評価点グループを上回るアップ（2.2 点）となったことから、本年度の総合評価点の標準偏差は 6.9 点と昨年度の 7.6 点よりやや縮小した。

評価項目の 4 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR

姿勢等が66%、説明会等が62%、フェア・ディスクロージャーが67%、コーポレート・ガバナンス関連が59%となった。ちなみに全分野共昨年度の水準を若干上回った。

全体の具体的評価項目(10)について見ると、平均得点率が相対的に高かった項目は昨年度に続き、次の項目である。

- ・ IR部門が経営陣と情報を共有し、経営陣の代弁者として十分に機能(平均得点率71%、[得点率《評価点/配点(以下省略)》80%台:5社、70%台:11社])

また、アナリストの意見を見ると、経営陣自らIRを行っていること等その取組姿勢や、IR部門の対応等その機能について総じて評価できるとの声があった。

一方、次の項目については、本年度も多数の企業の得点率が50%台以下となっており今後の改善が強く望まれる。

- ・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達についての十分な説明(平均得点率58%(昨年度:55%)、[得点率50%未満:5社、50%台:9社])

(2) 優良企業の評価概要

プロトコーポレーション(ディスクロージャー優良企業[4回連続5回目]、総合評価点:75.8点、第1位←1位)

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**(得点率(以下省略)83%)が第1位、**説明会等**(69%)が第7位、**フェア・ディスクロージャー**(79%)が2社同得点第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**(72%)が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長がIRの重要性を認識し、自ら積極的にIRに取り組んでいること等、経営陣のIR姿勢が高く評価された。また、IR部門が経営陣の代弁者として十分に機能し、積極的なIR活動を行っている点が高い得点率のトップの評価となった。加えて、良い事業悪い事業ともに開示するIRの基本スタンスも高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている点が高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途について十分に説明していることが評価を受けた。また、経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明しているも評価された。

以上のほか、説明会資料等において、収益および財務分析に必要なデータをほぼ網羅して詳細な計数を開示していることが評価された。

サイバーエージェント(ディスクロージャー優良企業[5回目]、総合評価点:74.6点、第2位←5位)

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**(79%)が第3位、**説明会等**(69%)が2社同得点第8位、**フェア・ディスクロージャー**(82%)が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**(70%)が第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が説明会で業績のよし悪しにかかわらず、丁寧な説明を行っていることが高く評価された。また、IR体制が数年間安定しており、経営陣の代弁者として十分機能している点も高い評価となった。加えて、赤字事業の説明をより丁寧に行い信頼が持てることも評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、豊富なデータが分かりやすく整理されていることでホームページにおける情報提供が極めて高い評価を受けた。さらに、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることも評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明している点が評価された。

以上のほか、説明会資料等において、収益および財務分析に必要なデータが記載されている点も評価された。

イリソ電子工業(ディスクロージャー優良企業[新規]、総合評価点:74.5点[昨年度比+8.9点]、第3位←8位)

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣のIR姿勢等**(82%)が第2位、**説明会等**(77%)が第1位であった。

経営陣のIR姿勢等においては、社長が四半期ごとの決算説明会において、自ら戦略や施策について十分に説明していることのほか、積極的な投資家訪問により経営戦略等について説明している点等、経営陣のIRへの取組姿勢が高い評価となった。また、経営陣とIR担当者は、戦略や数値を共有するなど連携が良く取れているため、

IR 担当者が経営陣の代弁者として十分に機能している点が高く評価された。さらに、悪い内容についての情報も十分に開示しているほか、それに対する今後の対応について説明していること等、IR の基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、今期業績計画について根拠を示し、整合性のある説明をしている点や、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていることのほか、将来の成長分野の見通しと課題について説明が行われている点等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。加えて、説明会資料等において、収益および財務分析に必要なデータが記載されている点も評価された。

また、同社は、昨年度に引き続き対象企業となった 19 社中他の 3 社と共に《以下略》、5 分野すべてと全項目の得点率が昨年度以上となる改善が見られ、上記のような評価点アップ（他の 1 社と共に第 2 位）につながった。

上記のプロトコーポレーション、サイバーエージェントおよびイリソ電子工業の 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として推薦する。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

エン・ジャパン（総合評価点：72.0 点、第 4 位←6 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、経営陣の IR 姿勢等（75%）が 2 社同得点第 4 位、説明会等（73%）が第 2 位であった。

経営陣の IR 姿勢等においては、社長が決算説明会において自分の言葉で経営戦略等を説明するスタンスが評価された。

説明会等においては、説明資料等で、収益および財務分析に必要なデータが詳細に記載され理解しやすい点が高く評価された。さらに、今期業績計画について論理的で整合性のある説明をしている点や、四半期ごとのプレゼン資料の内容が有益であることも評価された。

以上のほか、ホームページにおいて、同社の分析に必要な基本的情報が多く掲載され、見やすい点が評価を受けた。

セリア（総合評価点：70.9 点〔昨年度比+8.9 点〕、第 5 位←15 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、経営陣の IR 姿勢等（75%）が 2 社同得点第 4 位、説明会等（70%）が第 5 位、フェア・ディスクロージャー（75%）が第 4 位であった。

経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が自ら IR を行っている点や、IR 部門も経営上の課題と対応方針について詳細に把握し、経営陣の代弁者として十分に機能していることが評価された。

説明会等においては、中長期の見通しについて、客観的データを用い合理性のある前提を基に説明をしている点等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。

フェア・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていることが評価された。

また、同社は、5 分野すべてと全項目の得点率が昨年度以上となる改善が見られ、上記のような評価点と順位のアップ（評価点は他の 1 社と共に順位は単独で、第 2 位）につながった。

上記企業のほか、沖縄セルラー電話（総合評価点：69.3 点〔昨年度比+9.0 点〕、第 6 位←17 位）は、5 分野すべてと全項目の得点率が昨年度以上となる改善が見られ、以上のような評価点と順位の最大アップにつながった。

以 上

平成25年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (新興市場銘柄)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目3 (配点30点)		3. フェア・ディースク ロージャー 評価項目2 (配点15点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目2 (配点20点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	(4298) プロトコーポレーション	75.8	29.0	1	20.7	7	11.8	2	14.3	1
2	(4751) サイバーエージェント	74.6	27.7	3	20.6	8	12.3	1	14.0	2
3	(6908) イリソ電子工業	74.5	28.8	2	23.1	1	10.2	13	12.4	11
4	(4849) エン・ジャパン	72.0	26.1	4	22.0	2	11.0	6	12.9	6
5	(2782) セリア	70.9	26.1	4	21.1	5	11.2	4	12.5	9
6	(9436) 沖縄セルラー電話	69.3	25.6	6	21.0	6	10.2	13	12.5	9
7	(3268) 一建設	67.3	23.7	12	20.2	10	9.8	18	13.6	3
8	(2157) ニシダホールディングス	67.1	25.1	7	19.5	12	10.4	10	12.1	14
9	(4755) 楽天	66.9	24.3	8	17.9	20	11.8	2	12.9	6
10	(3733) ソフトウェア・サービス	66.8	20.8	24	21.6	3	11.1	5	13.3	4
11	(6324) ハーモニック・ドライブ・システムズ	66.6	24.3	8	19.9	11	10.3	11	12.1	14
12	(6889) オーデリック	65.9	22.9	14	20.6	8	10.0	17	12.4	11
13	(2400) マンセージ	65.7	24.3	8	21.2	4	9.5	21	10.7	22
14	(2767) ファイナルズ	65.6	24.1	11	18.7	15	10.9	7	11.9	17
15	(6145) 日特エンジニアリング	63.2	22.7	17	18.1	19	9.7	19	12.7	8
16	(2389) オプト	62.6	23.2	13	18.4	17	10.1	15	10.9	20
16	(8186) 大塚家具	62.6	21.6	22	17.6	21	10.1	15	13.3	4
18	(1407) ウェストホールディングス	60.5	22.2	18	19.2	13	8.4	25	10.7	22
18	(6787) メイコー	60.5	21.0	23	18.7	15	10.3	11	10.5	24
20	(2702) 日本マクドナルドホールディングス	58.6	21.7	20	15.3	24	10.5	9	11.1	19
21	(3765) ガンホー・オンライン・エンターテイメント	58.5	22.9	14	14.4	27	9.5	21	11.7	18
22	(7458) 第一興商	58.2	18.5	27	18.4	17	9.0	23	12.3	13
23	(7157) ライフネット生命保険	58.1	22.9	14	14.4	27	10.6	8	10.2	26
24	(2121) ミクシィ	57.8	21.8	19	15.9	23	9.7	19	10.4	25
25	(7826) フルヤ金属	57.7	21.7	20	16.5	22	8.6	24	10.9	20
26	(2362) 夢真ホールディングス	56.6	20.2	25	18.8	14	8.3	26	9.3	27
27	(2158) UBIC	54.0	19.4	26	14.6	26	8.0	27	12.0	16
28	(9204) スカイマーク	45.7	15.2	28	15.3	24	8.0	27	7.2	28
	評価対象企業評価平均点	63.6	23.1		18.7		10.0		11.8	

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の標準偏差は、本年度は6.9点、昨年度は7.6点であった。

25年度評価項目および配点(新興市場銘柄)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点 (35点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価] 	15	
(2) IR部門の機能		
<ul style="list-style-type: none"> ・ IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価] 	10	
(3) IRの基本スタンス		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～10点の整数で評価] 	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示		
<ul style="list-style-type: none"> ① 今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。 [1点～10点の整数で評価] 	10	
<ul style="list-style-type: none"> ② 中・長期の見通しについて、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価] 	10	
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～10点の整数で評価] 	10	
3. フェアー・ディスクロージャー		配点 (15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点～10点の整数で評価] 	10	
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホーム・ページ(ウェブ・サイト)に、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていますか。 [1点～5点の整数で評価] 	5	
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (20点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達について十分に説明されていますか。 [1点～8点の整数で評価] 	8	
(2) 経営機構、経営資源および内部統制について		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～12点の整数で評価] 	12	

新興市場銘柄専門部会委員

部会長	納 博司	いちよし経済研究所
部会長代理	得能 修	インバース投信投資顧問
	新井 剛	日興アセットマネジメント
	繁村 京一郎	野村証券
	中川 雅嗣	国際投信投資顧問
	東田 暁	野村アセットマネジメント
	南 利昭	三井住友信託銀行
	山口 威一郎	大和証券投資信託委託
	渡辺 真理子	UBS 証券

評価実施アナリスト（101名）

赤羽 高	東海東京調査センター	乙川 真一	丸三証券
秋山 貢一	岡三証券	風早 隆弘	ドイツ証券
浅川 直騎	朝日ライフアセットマネジメント	川崎 朝映	岩井コスモ証券
新井 勝己	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	城戸 謙治	みずほ信託銀行
新井 剛	日興アセットマネジメント	木村 勝	岩井コスモ証券
池田 達彦	大和証券	近藤 将人	三井住友信託銀行
石井 隆一	立花証券	権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント
石口 政樹	富国生命投資顧問	酒井 洋	SMBCフレンド調査センター
石塚 浩一	DIAMアセットマネジメント	佐藤 栄二	東洋証券
石原 太郎	大和証券	佐藤 俊郎	極東証券経済研究所
市川 雅敏	三井住友信託銀行	鮫島 誠一郎	いちよし経済研究所
岩渕 啓介	岡三証券	重松 揮響	三井住友信託銀行
上杉 佳代	日興アセットマネジメント	繁村 京一郎	野村証券
及川 剛明	野村証券	島田 秀明	富国生命投資顧問
大石 益美	いちよし経済研究所	下川 寿幸	立花証券
大平 光行	東海東京調査センター	梶崎 晴子	みずほ証券
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント投信	高世 智明	インバース投信投資顧問
大原 一真	野村証券	高野 芳行	東海東京調査センター
大牧 実慶	立花証券	高橋 圭	みずほ証券
岡崎 淳一	大和証券投資信託委託	竹内 織絵	インバース投信投資顧問
岡本 大典	富国生命投資顧問	竹川 克彦	三井住友信託銀行
沖本 修朗	新光投信	多功 英貴	シティグループ証券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	田嶋 由利子	三井住友信託銀行
忍足 大介	JPモルガン・アセット・マネジメント	田中 聡	大和証券
織田 浩史	SMBC日興証券	田中 俊	SMBCフレンド調査センター

田村 真一	極東証券経済研究所	藤井 真由美	インベスト投信投資顧問
角田 佑介	東海東京調査センター	藤田 要	いちよし経済研究所
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント	藤原 重良	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
寺島 正	大和証券投資信託委託	星野 正智	日興アセットマネジメント
徳田 優	大和証券	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
得能 修	インベスト投信投資顧問	増野 大作	野村證券
富田 展昭	極東証券経済研究所	松枝 誠	DIAM アセットマネジメント
土門 泰	りそな銀行	松嶋 俊介	三井住友アセットマネジメント
中川 雅嗣	国際投信投資顧問	松村 茂	SMBC フレント 調査センター
永嶋 さやか	日興アセットマネジメント	南 利昭	三井住友信託銀行
永田 昌寿	いちよし経済研究所	宮崎 充	SMBC フレント 調査センター
仲西 恭子	DIAM アセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
中橋 透	JP モルガン証券	茂木 高幸	日興アセットマネジメント
滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント	森 清	岡三証券
納 博司	いちよし経済研究所	安田 秀樹	エース経済研究所
成清 康介	野村證券	山口 威一郎	大和証券投資信託委託
萩原 幸一朗	東海東京調査センター	山口 芳明	SMBC フレント 調査センター
長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	山科 拓	BNP パリバ 証券
花井 由紀子	日興アセットマネジメント	山本 香澄	明治安田アセットマネジメント
張江 徹也	大和住銀投信投資顧問	吉田 純平	野村證券
張谷 幸一	いちよし経済研究所	米島 慶一	バークレイス証券
東田 暁	野村アセットマネジメント	渡辺 英克	みずほ証券
一柳 創	大和証券	渡辺 洋之	三井住友アセットマネジメント
広住 勝朗	大和証券	渡辺 真理子	UBS 証券
福岡 靖記	丸三証券	渡辺 洋一郎	水戸証券
福永 敬輔	三井住友信託銀行		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

大東建託、アサヒグループホールディングス、麒麟ホールディングス、旭化成、昭和電工、プロトコーポレーション、アステラス製薬、サイバーエージェント、JXホールディングス、日本電産、オムロン、シスメックス、日産自動車、富士重工業、ニコン、伊藤忠商事、ファミリーマート、みずほフィナンシャルグループ、日本郵船、KDDI (計 20 社・コード順)

1. 評価対象企業の選定

本優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（13 業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割の企業（小数点切上げ）のうち、平成 24 年 7 月から 25 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している 20 社とした。

本年度の評価対象企業の内訳は、昨年度も対象が 14 社、再対象が 6 社である。また、本選定を開始した 17 年度以降 9 回連続対象は 2 社、8 回目 1 社（7 回連続）、7 回目 3 社（5 回連続 1 社、2 回連続 1 社）、6 回目 2 社（2 回連続 1 社）、5 回目 2 社（4 回連続 1 社、2 回連続 1 社）、4 回目 6 社（4 回連続 3 社、2 回連続 1 社）、3 回目 1 社、2 回目 3 社（2 回連続 2 社）となっている。

2. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	本文中の略称	評価項目数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	個人投資家向け会社説明会	4	21
②ホーム・ページにおける開示等	ホーム・ページ	9	61
③事業報告書等の内容（注）	事業報告書等	3	18
計		16	100

（注）直近事業年度の事業報告書（または報告書）、株主通信（または株主の皆様へ）など株主や個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、分かりやすい解説を行っている IR 関連資料（アニュアルレポートは除く）として作成しているもので、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とした。

(2) 具体的評価項目と配点および評価方法

具体的な評価項目および配点は 103 頁に記載したとおりであるが、このうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 5 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（15 名）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3. 評価結果

(1) 総括

評価結果の概要は次のとおりである（個人投資家向け情報提供における評価比較総括表は 102 頁参照）。

総合評価平均点は 74.1 点で、上位 7 社の評価点は 80 点台（昨年度は 6 社が 80 点台）の高い評価となり、続く上位 14 位までの 7 社が 70 点台（同 10 社）の好評価となった。評価項目の 3 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、個人投資家向け会社説明会が 67%、ホーム・ページが 78%、事業報告書等が 71%となった。

評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した 5 項目について見ると、個人投資家向け会社説明会の開催に関しては、昨年 7 月から本年 6 月までの 1 年間の平均開催回数は、9.5 回（昨年度：対象企業 24 社で 7.2 回）であり、説明会に社長が参加して説明を行っている企業は、対象企業 20 社中 8 社：40%（昨年度：24 社中 11 社 46%）で、その割合は昨年度をやや下回った。

さらに、個人投資家向け会社説明会の内容をホーム・ページに掲載している企業は、20 社中 17 社：85%（昨年度 24 社中 19 社 79%）であり、説明会の内容を掲載している企業の比率は高くなっている。

この17社について見ると、配布資料に加え動画または音声配信で視聴等ができる企業は、11社：65%（昨年度：19社中12社63%）、資料のみは6社：35%であり、動画または音声配信の企業の割合はさほど大きな変化はない。

次に、ホームページに関しては、独立した個人投資家向けサイトを設けている企業は、20社中19社：95%（昨年度：22社92%）であり、その割合は昨年度とほぼ同程度であった。

また、「各種説明会（個人投資家向け説明会を除く）の内容をホームページに掲載しているか」については、昨年度と同様に全社が対応できている。その内容について見ると、動画掲載が12社（60%〔昨年度54%〕）、音声配信が7社（35%〔昨年度42%〕）、資料のみ掲載が1社となっており、その割合を昨年度と比べると、動画掲載が大きく拡大している。

なお、「良くある質問と回答（FAQ、説明会時の質疑応答を除く）」は全社が掲載している（昨年度も同様）。

また、専門部会委員による評価は11項目について行った。その評価は、開示内容が、一般投資家に理解できるように具体的に分かりやすく説明・記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から行った。

これらの項目についての評価結果は次のとおりである。ホームページの事業内容（主力商品、主力サービス等）の説明の分かりやすさは、他の項目と比べて、昨年度よりややアップの評価だったが、その他は概ね昨年度とほぼ同水準の評価結果であった（個人投資家向け会社説明会、個人投資家向けサイトの充実度は、ホームページに掲載のある企業についての評価点での比較）。

【個人投資家向け会社説明会】

- ・ ホームページに掲載された個人投資家向け会社説明会の充実度と分かりやすさ：平均得点率〔掲載17社：73%〕（昨年度：掲載19社：74%）

【ホームページ】

- ① IRに関するホームページの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度：平均得点率（以下省略）85%（昨年度：83%）
- ② 個人投資家向けサイトの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度：〔サイト有り：19社：82%〕（同：22社80%）
- ③ 事業内容（主力商品、主力サービス等）の説明の分かりやすさ：80%（同75%）
- ④ 各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について
 - A. 業績動向の説明の具体性と分かりやすさ：76%（同73%）
 - B. 業界動向の説明の分かりやすさ：66%（同65%）
 - C. 経営目標、経営戦略の説明の具体性と分かりやすさ：76%（同74%）
- ⑤ 良くある質問と回答（FAQ）の充実度と分かりやすさ：68%（同：66%）

【事業報告書等】

- ① 全体として、図表を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が理解しやすいような工夫度：平均得点率（以下省略）73%（昨年度：72%）
- ② 経営方針、中・長期経営ビジョンの説明の簡潔度と分かりやすさ：68%（同65%）
- ③ 業績の動きの説明の分かりやすさ：70%（同70%）

(2) 優良企業の評価概要

日本電産（総合評価点：86.3点、第1位←4位、〔7回目の優良企業・評価対象7回連続8回目〕）

同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会（得点率〔評価点/配点〕（以下省略）80%）が第8位、ホームページ（89%）および事業報告書等（同社は株主通信（第40期事業のご報告））（87%）が第1位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会（この項目の評点は、開催回数に応じ、2回以上：2点、1回：1点の2段階とした。）は、評価対象期間中に9回開催され、社長が参加して説明を行っている。説明会の資料はホームページに掲載され、さまざまな分野で展開する自社製品の写真での説明や、世界シェアNO1の製品群を示すなど、事業内容を分かりやすくアピールしているほか、歴史や成長戦略等を初めて知る個人投資家にも配慮した内容で説明していることに加え、事業ポートフォリオの転換について図解入りでバランス良く解説している点等が高く評価された。

ホームページにおいては、事業内容について、主力製品情報や技術情報が探しやすく、製品別にコンパクトな

説明書きを添えて理解を深めさせる、丁寧な工夫が見られることや、主力事業ごとの簡潔で分かりやすい説明等が極めて高い得点率のトップ評価となった。また、掲載されている各種資料での業績動向に関し、業績ハイライトで売上高、営業利益等の主要項目の直近5期および10期の推移を、グラフ等を活用して分かりやすく紹介している点に加え、製品グループごとのデータを四半期ベースで開示していることのほか、経営目標や中期成長戦略等について、図表やグラフを用いて明確に示している点も高い評価を受ける等、この分野でトップの得点率となった。

事業報告書等については、全体として、コンパクトな冊子に写真、図表、文章がバランス良く配置され、ポイントがつかみやすい構成になっているなど、見やすさへの工夫が凝らされ内容も充実していること等が極めて高い評価を受けた。また、業績動向に関し、5期にわたり主要項目の業績推移をグラフと簡潔なコメントにより分かりやすく説明している点や、製品グループ別業績も写真、グラフ、数値にコメントを加えて理解しやすく作成していることが高く評価される等、この分野もトップとなった。

シスメックス（総合評価点：86.0点、第2位←3位、[2回連続2回目の優良企業・評価対象：同]）

同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会（93%）が第2位、ホームページ（84%）が2社同得点第4位、事業報告書等（同社は期末株主通信（第46期））（85%）が第2位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、3回開催され、社長等が参加して説明を行っている。説明会の内容はホームページで動画配信され、個人投資家がビジネスモデルを理解しやすいようにシンプルな作成に工夫が見られ、また、説明会の終盤の「強みのおさらい」は、個人投資家に自社の理解を確実にさせる試みとして注目できること等、全体的に分かりやすく内容も充実している点が高く評価された。

ホームページにおいては、事業内容について、ホームページ全体に事業・製品等の説明があり、「なるほど！シスメックス」コーナーを設け、事業や強み等を分かりやすく説明している点や、「シスメックススーパーチャルツァー」のコーナーでは、生産拠点等を動画とコメント付きで紹介し、理解を深めさせる工夫が見られること等が高い評価を受けた。また、FAQに関し、事業内容等の7つの大項目に分類し、それぞれに幅広い内容の充実した質問と丁寧な回答が用意されている点等が、極めて高い得点率のトップ評価となった。

事業報告書等については、大判の冊子に大きめの図表等を多く使用し、全体のバランスも良く、文字サイズも大きめにする編集になっている等、全体的に見やすく工夫され、内容も充実していることが高く評価された。また経営方針等に関し、社長に聞くQ&A「新・中期経営計画」についてのコーナーで、答えのポイントを大文字で簡潔にし、また、重要な部分は文字色を変えて強調するなど分かりやすさへの工夫が見られる点等が高い評価を受けた。

JXホールディングス（総合評価点：85.6点、第3位、[新規優良企業・評価対象再開：3回目]）

同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会（95%）が第1位、ホームページ（85%）が第3位、事業報告書等（同社は株主通信（第3期ご報告））（78%）が第5位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、21回開催され、社長が参加して説明を行っている。説明会の内容は、ホームページで動画配信され、グループ全体の体制、特徴、事業の概略、シェア等について、写真や見やすい図表を用いて、初めて知る個人投資家にも分かりやすい内容になっているほか、各事業の紹介も写真と業界シェアを活用し、詳細で事業内容が理解しやすく、また、各事業戦略も図表やグラフ等に加え、簡潔な説明が付され分かりやすさへの工夫が見られることが高い評価を受ける等、この分野でトップの得点率となった。

ホームページにおいては、IRに関する株主・投資家情報のトップページが、分かりやすく表示され探しやすい画面構成になっていることに加え、大見出し項目をクリックすると、中の項目の掲載内容が簡潔なコメント付きで表示される仕組みの工夫のほか、自社と中核3社の発表資料、人気ページの各コーナーの利便性等が極めて高く評価された。また、「個人投資家のみなさまへ」のトップ画面の掲載項目の表示が、すっきりして分かりやすく工夫されており、さらに、「知っておきたい基礎知識」のコーナーでは、自社グループの事業に関する事項のシリーズ掲載が、個人投資家を意識したやさしい内容になっていること等が、極めて高い得点率のトップ評価（他に1社）となった。

事業報告書等については、経営方針等に関し、終了した前中期経営計画の総括、新たな中期計画および長期ビジョンについて、多くの紙面を使って数値目標や前提条件、実現すべき戦略等を、数値・文章・見やすいグラフ・図表・写真を用いて、個人投資家も理解しやすいように丁寧に説明していることが高く評価された。

上記の**日本電産**、**シスメックス**および**JXホールディングス**の3社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として推薦する。

以 上

平成25年度 個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 個人投資家向け会社説明会 の開催等		2. ホーム・ページにおける 開示等		3. 事業報告書等の内容	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	(6594) 日本電産	86.3	16.7	8	54.0	1	15.6	1
2	(6869) シスメックス	86.0	19.6	2	51.1	4	15.3	2
3	(5020) JXホールディングス	85.6	19.9	1	51.6	3	14.1	5
	評価対象企業(20社) 評価平均点	74.1	14.1		47.3		12.7	

25年度評価項目および配点(個人投資家向け情報提供)

(過去1年間に「個人投資家向け会社説明会」を開催した企業について評価。網掛けの項目は対象企業へのアンケート結果を基に評点)

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等		配点 (21点)
(1)	過去1年間(前年7月から本年6月までの間)に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.2回以上:2点、B.1回:1点]	2
(2)	個人投資家向け会社説明会は、社長が説明を行いましたか。 [A.社長が行った:3点、B.社長以外が行った:1点]	3
(3)	個人投資家向け会社説明会の内容は、ホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる:6点、B.配布資料の掲載のみ:3点、C.掲載なし:0点]	6
(4)	ホーム・ページに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、分かりやすく(一般投資家に理解できるように)、かつ充実していますか。 [1点~10点の整数で評価。掲載なし:0点]	10
2. ホーム・ページにおける開示等		配点 (61点)
(1)	IRに関するホーム・ページは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ分かりやすく工夫されていますか。 [1点~4点の整数で評価]	4
(2)	個人投資家向けサイト(個人投資家の皆様へ等の独立したサイト)が設けられていますか。 [A.あり:2点、B.なし:0点]	2
(3)	個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ分かりやすく工夫されていますか。 [1点~5点の整数で評価。個人投資家向けサイトがない場合:0点]	5
(4)	事業内容(主力商品、主力サービス等)が分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
(5)	ホーム・ページに掲載されている各種説明会資料(個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む)について	
A	業績の動きが、具体的に分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
B	業界動向が分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
C	経営目標・経営戦略が、会社の強み(業界シェアや他社との差別化等を含む)や課題等を踏まえて、具体的にかつ分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
(6)	各種説明会(個人投資家向け会社説明会を除く)の内容はホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 [A.動画または音声で視聴できる:5点、B.資料のみ掲載:2点、C.掲載なし:0点]	5
(7)	ホーム・ページに掲載のよくある質問と回答(FAQ)[説明会時の質疑応答は除く]は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、分かりやすいですか。 [1点~5点の整数で評価。FAQの掲載がない場合:0点]	5
3. 事業報告書等の内容【注】		配点 (18点)
(1)	全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか。 [1点~6点の整数で評価]	6
(2)	経営方針、中・長期経営ビジョンが分かりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。 [1点~6点の整数で評価]	6
(3)	業績の動きが分かりやすく(読み手が理解しやすいように)説明されていますか。 [1点~6点の整数で評価]	6

【注】直近事業年度の事業報告書(または報告書)、株主通信(または株主の皆様へ)など株主や個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、分かりやすい解説を行っているIR関連資料(アンニュアルレポートは除く)として作成しているもので、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部会長
部会長代理

品田 民治	野村證券
牛尾 貴	丸三証券
井上 政則	野村證券
鶴崎 和彦	岡三証券
宇田川 克己	いちよし証券
内生蔵 淳	みずほ証券
大塚 俊一	いちよし証券
織田 正也	SMBC 日興証券
河合 信夫	みずほ証券
高橋 卓也	大和証券
船山 省治	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
堀内 敏一	岩井コスモ証券
守田 誠	大和証券
吉井 豊	水戸証券
吉越 昭二	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(平成 25 年度)

平成 25 年 10 月発行

編集兼発行所 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
電話 03(3666)1515
<http://www.saa.or.jp>

印刷所 株式会社 太平社
